

# 第一章 文型・動詞の語法

動詞の語法は、大学受験などにおいて最も出題される最頻出の単元です。動詞の語法とは、簡単に言うと、その動詞が、自身の後ろに（あるいは主語に）どんな構造（や語）を取れるかということであり、それを問うのが動詞の語法の問題ということになります。ですから、動詞の語法の問題というのは、その動詞の取りうる語法を知らないで解きようがないだけに、しっかり知識を深め、整理することが大切です。

## レクチャー1

### 自動詞と他動詞。

英語の動詞には「自動詞(intransitive verb。Viと略す)」と「他動詞(transitive verb。Vtと略す)」があります。他動詞とは

「他者の助けがないと存在できない動詞」

と覚えたらいいでしょう。「他者」とは目的語のことで、**他動詞は直後に目的語になる名詞を置かないと、動詞として存在できません。**つまり英文中では、

他動詞+目的語

となるわけです。

會目的語について。

動詞というのは、『動作を表す言葉』のこと。たいてい動作には目的がある。その動作の目的・対象を表す言葉のことを目的語というのだ。例えば『ラーメンを食べる』と言えば、『食べる』という動作(行為)の目的は『ラーメン』だ。つまり『ラーメン』が『食べる』の目的語だ。『電気をつける』なら、『電気』が『つける』の目的語。『ドアを閉める』なら『ドア』が『閉める』の目的語だ。で、今の例の「ラーメン」「電気」「ドア」でもわかることだが、目的語になれるのは基本的に名詞(とその仲間)だけ。具体的には「名詞」「代名詞」「動名詞」「不定詞」「名詞節」など。

自動詞とは

「自分だけで存在できる動詞」

と覚えたらいいでしょう。自動詞は（他動詞とは逆に）直後に**目的語などを取らなくても存在できる**のです。つまり英文中では、

自動詞+\_\_\_\_\_ ☞S+Vだけで文が構成されうる。  
自動詞+C(名詞・形容詞等) ☞C(補語)として名詞を後ろに置くことはある。  
自動詞+副詞

といった構造になります。

また自動詞は、前置詞のワンクッションを置けば、その後に目的語となる名詞を取ることができます。つまり

#### 自動詞+前置詞+名詞

といった構造にもなりうるわけです。

ここで理解をより深めるために、「自動詞」と「他動詞」が取ることができないパターンというのを整理しておきましょう。

- ×自動詞+目的語 ☞自動詞は前置詞の助けなしに目的語は取れない。
- ×他動詞+\_\_\_\_\_ ☞他動詞は逆に目的語なしで存在できない。
- ×自動詞+前置詞+\_\_\_\_\_ ☞自動詞は前置詞を後ろに置いたら、今度は必ずその後目的語になる名詞を取らなければならない。
- ×他動詞+前置詞+目的語 ☞他動詞は前置詞の助けなしで直接目的語を取る。

中学英語で「I go to school.」とは言えても「I go school.」とは言えませんでした。あるいは「I arrived at the station.」とは言えても「I arrived the station.」とは言えなかったはず。その理由がこれでわかります。つまり「go」も「arrive」も自動詞なので、直後に前置詞のワンクッションがなければ目的語になる名詞を取ることができなかつたのです。

#### 《もう一歩深く!!「自動詞と他動詞 その1」》

自動詞と他動詞の違いを、意味の上からもう少し深く考えてみましょう。  
(意味の上から考えると)他動詞とは、「S(主語)の行為が直接・全面的にO(目的語=他者)に及ぶ」ということ。逆に自動詞とは「S(主語)の行為が自分(=主語自身)にとどまる(=他者にまで及ばない)」ということなのです。  
これをまず search(捜す)という動詞で考えてみましょう。  
search には search A という(他動詞の)語法と、search for A という(自動詞の語法)があります。

The police searched the house. [他動詞]

という場合、「(警察が)捜す」という行為が、「その家」にまで(直接的・全面的に)及んだということになります。したがって「警察はその家を家宅捜索した」という意味になるのです。

これが search for A を用いて

The police searched for the house. [自動詞]

と言う場合、for という前置詞に阻(はば)まれ、「捜す」という行為が「その家」にまで(直接的・全面的には)及んでいないことになるのです。そこで (for は「～に向かって」という方向・目的を表す前置詞なので)、「その家に向かって(を求めて)捜索を行った」、つまり「警察はその家を捜した」となるのです。

他の例をあげると

① The policeman shot the criminal. [他動詞]

② The policeman shot at the criminal. [自動詞]

①の場合、「撃った(shot)」という行為が「その犯人」にまで(直接的・全面的に)及んだ。つまり「(銃であれば)弾が犯人に当たった」ことが予測できます。ところが②の場合、at(「～めがけて」という前置詞)が shot の後ろに割り込んでいるため、「犯人めがけて撃った」と言っているだけで、実際にその弾が当たったかどうかはわからないのです(当たっていないかもしれない。その後の文脈次第)。

## レクチャー2

「自動詞と間違えやすい他動詞」。「他動詞と間違えやすい自動詞」。

特に「自動詞と間違えやすい他動詞」は、動詞の語法の問題としては、最もよく出題されるものです。しっかり覚えましょう。

### (1) 「自動詞と間違えやすい他動詞」

discuss の意味は「Aについて討論する」です。この日本語の意味から日本人はつい、「discuss about A」とやってしまいがちです。が、実は discuss は他動詞なので、about等という前置詞の助けは必要としません。「discuss A」というのが正しい形なのです(同じ意味でも、自動詞の talk を使えば「talk about A」が正しい形になる)。

この discuss に代表されるような、日本語感覚からついうっかり前置詞を入れてしまいやすい他動詞が英語にはあります。代表例をあげてみましょう。

- |   |                  |               |  |
|---|------------------|---------------|--|
| ① | discuss A        | 「Aについて討論する」   | =talk about A                          |
| ② | accompany A      | 「Aについてゆく」     | =go with A, follow A                   |
| ③ | marry A          | 「Aと結婚する」      | =get married to A                      |
| ④ | attend A         | 「Aに出席する、通う」   | =go to A                               |
| ⑤ | stand A          | 「Aに耐える」       | =put up with A, endure A<br>tolerate A |
| ⑥ | approach A       | 「Aに近づく」       | =come to A                             |
| ⑦ | resemble A       | 「Aに似ている」      | =take after A                          |
| ⑧ | enter A          | 「Aに入る」        | =come into A                           |
| ⑨ | A(物) strike B(人) | 「AがBの頭に思い浮かぶ」 | =A(物) occur to B(人)                    |
| ⑩ | obey A           | 「Aに従う」        | =yield to A                            |
| ⑪ | join A           | 「Aに参加する」      | =take part in A, participate in A      |
| ⑫ | await A          | 「Aを待つ」        | =wait for A                            |
| ⑬ | contact A        | 「Aと接触する」      | =get in touch with A                   |
| ⑭ | oppose A         | 「Aに反対する」      | =object to A, be opposed to A          |
| ⑮ | reach A          | 「Aに着く」        | =arrive at A, get to A                 |
| ⑯ | excel A          | 「Aに勝る、上回る」    | =be superior to A<br>surpass[exceed] A |
| ⑰ | mention A        | 「Aについて話す」     | =refer to A                            |
| ⑱ | inhabit A        | 「Aに住む」        | =live in A                             |

①～⑱の動詞の頭文字をつなげて

「だまされそうじゃこれ見い(damasaresojacoremi)」

と覚えよう。

## (2) 「他動詞と間違えやすい自動詞」

逆に、自動詞なので今度は前置詞の助けが必要なはずなのに、これまた日本語感覚からついうっかり前置詞を入れ忘れてしまいやすい、そんな自動詞があります。これも代表例を挙げておきましょう。ぜひ前置詞とワンセットで覚えてください。

- |   |                   |   |
|---|-------------------|---|
| ① | graduate (from A) | 「(Aを) 卒業する」                                 |
|   | ①                 | 名詞として「卒業生」という意味もある。「卒業」は graduation。        |
| ② | account (for A)   | 「(Aについて) 説明する」 =explain A                   |
|   | ①                 | Aに「数詞・割合」が来ると「Aを占める」。occupy A で言い換え可。       |
| ③ | quarrel (with A)  | 「(Aと) 口論する」                                 |
|   | ①                 | ちなみに、「(手も出して)ケンカする」は fight with[against] A。 |
| ④ | respond (to A)    | 「(Aに) 反応する」                                 |

☞ in response to A で「Aに応じて、答えて」。

⑤reply (to A) 「(Aに) 返事を書く」 = answer A

⑥insist (on A) 「(Aを) 主張する」

☞ insist は that節を目的語に取る他動詞用法もある。

その場合、that節内の動詞は「(should)+原形」になる。

(ex) He insisted that I (should) do it.

彼は私がそれをすべきだと主張した

⑦persist (in A) 「(Aに) 固執する」

☞ persist には「存続[持続]する」という意味もある。名詞形は persistence。

⑧hope (for A) 「(Aを) 希望する」

☞ hope も that節や to不定詞を目的語に取る他動詞用法もある。

⑨dispense (with A) 「(A) なしで済ませる」

⑩dispose (of A) 「(Aを) 処理[処分]する」

⑪agree (with/to A) 「(Aに) 同意する」

☞ with の後には「人(の意見)」、to の後には「提案・条件」。

⑫major (in A) 「(Aを) 専攻する、専門に扱う」

=specialize (in A)

⑬appeal (to A) 「(Aに) 訴える」

⑭start (from A) 「(Aを) 出発する」

☞ start for A なら「Aに出かける」。Aには「場所」を表す名詞が来る。

⑮interfere (with A) 「(Aを) 邪魔する」

⑯compete (with[against] A) 「(Aと) 競争する」

⑰complain (of[about] A) 「(Aについて) 不満を言う」

☞ complain to A(人) of[about] B(物・事) で「AにBについて不満を言う」。

名詞形は complaint。

⑱consent (to A) 「(Aに) 同意する」 = give one's consent to A

⑲object (to A) 「(Aに) 反対する」 = oppose A

⑳wait (for A) 「(Aを) 待つ」 = await A

## 《もう一步深く!! 「自動詞と他動詞 その2」》

このレクチャーを読んだ読者は、もしかすると、英語の動詞は「自動詞グループ」と「他動詞グループ」の2グループに、きっちり分けられると思ってしまいかもしれない。しかしそれは間違いで、実はほとんどの動詞は自動詞としての用法、他動詞としての用法、どちらも持っているのである。たとえば end という動詞を例にあげると

①We ended the discussion at once.

我々はすぐにその議論をやめた

②The war ended in 1945.

その戦争は1945年に終わった

①の end は、直後に「目的語(the discussion)」を取っており、これは他動詞の end。

②の end は、直後には「前置詞+名詞(in 1945)」を取っており、これは自動詞の end。

他動詞用法しかない discuss や、自動詞用法しかない go や be動詞などは、実は少数派なのである(であるが故に語法問題などで問われやすいと言える)。

### レクチャー3

5つの文型とそれぞれの文型によく使われる動詞。

英語には以下のような5つの文型がありますね。

5文型 { (1)S + Vi  
(2)S + Vi + C  
(3)S + Vt + O  
(4)S + Vt + O<sub>1</sub> + O<sub>2</sub>  
(5)S + Vt + O + C

(1)(2)はO(目的語)がありません。つまり自動詞(Vi)によって構成される文型であるのに対し、(3)(4)(5)はO(目的語)がついている、すなわち他動詞(Vt)によって構成される文型です。

この5つの文型の中で、頻出の文型とその動詞のパターンをまとめてみましょう。

(1)「SVC」を作る動詞。

①知覚動詞

1. 「Cのように見える」型…seem, look, appear, sound など

(ex) seem excited 興奮しているように見える

look tired 疲れているように見える

appear well 元気そうに見える

sound strange 奇妙に聞こえる

## 2. 「Cの味／臭い／感じがする」型…taste, smell, feel など

- (ex) taste sweet 甘い味がする  
smell good いい香りがする  
feel happy 幸せに感じる

### ②状態や状態の継続、変化を表す動詞

#### 1. 「C(の状態)である」型 [状態] …be, lie, sit など

- (ex) be open 開いている  
lie unused 使用されていない  
sit brushing one's hair 髪をとかしながら座っている

#### 2. 「Cのままている」型 [状態の継続] …keep, remain, stay など

- (ex) keep silent 黙ったままている  
stay young いつまでも若い  
remain unmarried (依然として)独身のままである  
hold still じっとしたままている  
[その他]stand, continue

#### 3. 「Cになる」型 [状態の変化] …become, get, grow など

- (ex) get dark 暗くなる    turn red    赤くなる    fall asleep 眠る  
grow tired 疲れる    run dry    干上がる  
go sour 腐る    make a good wife 良い妻になる  
come true 実現する    become a doctor 医者になる

⚠make はCには「名詞」しか取らない。come は「good型の形容詞」  
go は「bad型の形容詞」をCに取る。

### ③「Cだと判る、(結果として)Cとなる」型

- turn out [to be] C(形・名)  
=prove [to be] C(形・名)

- (ex) The story turned out to be true.  
その話は本当であることが判明した  
The party proved to be a great success.  
パーティーは大成功となった

### ④慣用的なSVC構文

1. The fact is that S + V ~.    「実は～だ」 「実際～だ」  
=The truth is that S + V ~.  
=To tell the truth, S + V ~.  
=As a matter of fact, S + V ~.



- 2.[The] Chances are that S + V ~. 「たぶん～だ」  
 3.The problem is that S + V ~. 「困ったことに～だ」  
 =The trouble is that S + V ~.  
 4.The point is that S + V ~. 「要するに～だ」  
 =To sum up, S + V ~.  
 5.My guess is that S + V ~. 「(私は)～だと思う」  
 6.The thing is that S + V ~. 「重要なのは～だ、私が言いたいのは～だ」

Ⓢこれらの英文の that は省略されることがある。

(ex) The truth is, he arrived earlier.

実際には彼が早く到着した

## (2) 「SVO<sub>1</sub>O<sub>2</sub>」。

### ①O<sub>1</sub>とO<sub>2</sub>の入れ換え

「SVO<sub>1</sub>O<sub>2</sub>」を作る動詞のほとんどは「O<sub>1</sub>(人)」と「O<sub>2</sub>(物・事)」の語順を入れ換えることができます。その際、入れ代わった「O<sub>2</sub>」と「O<sub>1</sub>」の間に入る前置詞が動詞によって異なります。

Ⓢただこれらが語法問題などで問われることはほとんどない。

1. 「S+Vt+O<sub>1</sub>+O<sub>2</sub>」 ⇔ 「S+Vt+O<sub>2</sub> to O<sub>1</sub>」型
2. 「S+Vt+O<sub>1</sub>+O<sub>2</sub>」 ⇔ 「S+Vt+O<sub>2</sub> for O<sub>1</sub>」型
3. 「S+Vt+O<sub>1</sub>+O<sub>2</sub>」 ⇔ 「S+Vt+O<sub>2</sub> of O<sub>1</sub>」型

#### 1. 「S+Vt+O<sub>1</sub>+O<sub>2</sub>」 ⇔ 「S+Vt+O<sub>2</sub> to O<sub>1</sub>」型

(ex) allot「分配する」	lend「貸し与える」	throw「(視線・言葉等を)向ける」	sell「売る」
allow「与える」	pass「手渡す」	teach「教える」	hand「手渡す」
award「授与する」	pay「支払う」	write「(手紙などを)書く」	send「郵送する」
bring「持ってくる」	give「与える」	tell「話す」	show「見せる」
read「読んで聞かせる」	grant「与える」	recommend「推薦する」	promise「約束する」

I will give you the money.

=I will give the money to you.

君にその金をあげよう

#### 2. 「S+V+O<sub>1</sub>+O<sub>2</sub>」 ⇔ 「S+Vt+O<sub>2</sub> for O<sub>1</sub>」型

(ex) bring「持ってくる」	do「与える」	order「注文してやる」
buy「買う」	find「見つけてやる」	prepare「(料理等を)こしらえる」
call「呼ぶ」	get「手に入れてやる」	spare「分け与える」
choose「選んでやる」	leave「残しておく」	stand「(飲食物を)おごってやる」
cook「料理してやる」	make「作ってやる」	



④forを取る動詞の特徴は「～のために(…してあげる)」という「(他者への)利益」を感じさせるものが多い。

④bringとdoは前置詞to、forどちらも取りうる。

He bought his son a video game.

=He bought a video game for his son.

彼は息子にTVゲームを買った

### 3. 「S+Vt+O<sub>1</sub>+O<sub>2</sub>」 ⇔ 「S+Vt+O<sub>2</sub> of O<sub>1</sub>」型

④このタイプはask(尋ねる)のみ。

(ex) I will ask you a question.

=I will ask a question of you.

あなたに1つ質問があります

### ②「SVO<sub>1</sub>O<sub>2</sub>」で注意すべき動詞

SVO<sub>1</sub>O<sub>2</sub>をとる動詞は基本的に「O<sub>1</sub>にO<sub>2</sub>を与える」という意味になります。

ただ例外的に「与える」という意味にならない(ならないように一見みえる)動詞もあります。

④具体的には「AにBを与えない」「AからBを奪う・取り除く」型が多い。これらは少数ではあるが受験では頻出!

・deny A(人) B(物) 「AにBを与えない(使わせない)」・cost A(人) B(生命・仕事・犠牲)「AからBを奪う」

・spare A(人) B(苦勞等)「AにBを与えない」・cost A(人) B(金額・費用)「AからBを奪う(取る)」

・save A(人) B(勞力)「AからBを取り除く」・take A(人) B(時間など)「AからBを奪う(取る)」

・charge A(人) B(金)「AにBを請求する」

spareには「AのためにBを割いてやる」という「与える」型の用法もあるので注意。

① Could you spare me a few minutes?

少し時間をとってくれませんか

② I will spare you trouble.

あなたにご迷惑はかけません

①は「AにBを与える」型のspare。②は「AにBを与えない」型のspareの用例。

その他として「envy A(人) B(物事):AのBをうらやむ」「wish A(人) B(幸せ・挨拶):AのB(幸せ)を願う、AにB(挨拶)を言う」などがある。

では以下にその例をあげてみましょう(1.~3.、6.~8.は頻出)。

#### 1.[cost A(人) B(金)] 「AにBかかる」

(ex) This DVD player cost me about 100,000 yen.

このDVDプレーヤーは10万円だった

④活用は cost - cost - cost。

#### 2.[cost A(人) B(犠牲)] 「AにBの犠牲を強いる」

(ex) Carelessness cost him his life.

不注意のために、彼は命を失った

### 3.[take A(人) B(時間など)] 「AにBかかる」

(ex) It took me 10 minutes to go there.

そこに行くのに10分かかった

㊦ 「かかる」という take, cost は「人」を主語に取らない。

It takes A(人) B(時間など) to do[原形]～.

=It takes B(時間など) for A(人) to do[原形]～.

で、「Aが～するのにBかかる」という構文として覚えてしまおう。

### 4.[deny A(人) B(要求されたもの)] 「AにBを与えない」

(ex) Nancy denies her children nothing.

ナンシーは子供たちに何でも与える

### 5.[envy A(人) B(物事)] 「AのBをうらやむ」

(ex) I envy you your success.

あなたの成功がうらやましい

### 6.[save A(人) B(時間・金・労力)] 「AのBを節約する」

(ex) This new machine will save us a lot of time.

この新しい機械のおかげでかなり時間が節約できるだろう

### 7.[spare A(人) B(物事)] 「AのためにBを割く[とっておく]」

(ex) Could you spare me a few minutes today?

今日少し時間をとってくださいませんか

### 8.[spare A(人) B(苦勞等)] 「AにBをかけないように気を配る」

(ex) I will spare you trouble.

あなたにご迷惑はかけません

### 9.[charge A(人) B(金)] 「AにBを請求する」

(ex) They charged him six dollars for the repair of his watch.

時計の修理代として彼は6ドル請求された

### 10. [wish A(人) B(幸せ・挨拶)] 「AのB(幸せなど)を願う」

「AにB(挨拶など)を言う」

(ex) I wish you a Happy New Year.

新年おめでとう

I wish you many happy returns of the day.

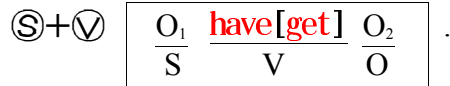
誕生日おめでとう

She wished me (a) good night.

彼女は私におやすみなさいと言った

SVO<sub>1</sub>O<sub>2</sub> の本質にあるもの

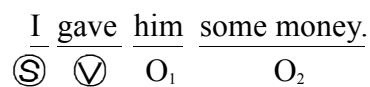
もう少し第四文型の意味を深掘りすると、第四文型の意味の根本は



「 $\textcircled{S}$ が原因となって $O_1$ は $O_2$ を have[get]する／しない[できない]

となります。

たとえば



は、「私が原因となって、彼はいくらかのお金を持った[得た] → 彼にいくらかのお金を与えた」となるのです。

多くは「する」型だが、deny など(少数だが)「しない[できない]」型もあるということ。

charge O<sub>1</sub> (人) O<sub>2</sub> (金) 「O<sub>1</sub> に O<sub>2</sub> を請求する」

は、「Sが原因となって、O<sub>1</sub>は(支払うべき金[負債]として) O<sub>2</sub>を持つ[手にする]」ということなのです。

(3) 「SVOC」の「C」のバリエーション。

5つの文型の中でも「SVOC」は、作文、解釈等で特に狙われやすい文型(構文)です。ですから「SVOC」に関しては、他の文型以上に細かな知識を持つておくことが大切です。その中でも特によく狙われるのが「SVOC」の「C」にどんな品詞がくるのかという「C」のバリエーションです。一つ一つ詳しく見ていくことにしましょう。

まず「C」に「to do[原形]～」をとる代表的な動詞をあげてみましょう。

- |                                   |                                    |
|-----------------------------------|------------------------------------|
| (ex) want O to do[原形]～ 「Oに～してほしい」 | cause O to do[原形]～ 「Oに(結果的に)～させる」  |
| wish O to do[原形]～ 「Oに～してほしい」      | lead O to do[原形]～ 「Oに～する気にさせる」     |
| prefer O to do[原形]～ 「Oに～してほしい」    | tempt O to do[原形]～ 「Oに～する気にさせる」    |
| force O to do[原形]～ 「Oに(無理やり)～させる」 | request O to do[原形]～ 「Oに～するよう要求する」 |

compel O to do[原形]～「Oに(無理やり)～させる」	require O to do[原形]～「Oに～するよう要求する」
oblige O to do[原形]～「Oに(無理やり)～させる」	induce O to do[原形]～「Oに～するよう勧める」
expect O to do[原形]～「Oが～するのを期待[予想]する」	urge O to do[原形]～「Oに～するよう勧める」
enable O to do[原形]～「Oが～できるようにする」	allow O to do[原形]～「Oに～するのを許可する」
get O to do[原形]～「Oに～させる」	permit O to do[原形]～「Oに～するのを許可する」
leave O to do[原形]～「Oに～させておく」	ask O to do[原形]～「Oに～するよう頼む」
tell O to do[原形]～「Oに～するよう命じる」	persuade O to do[原形]～「Oに～するよう説得する」
order O to do[原形]～「Oに～するよう命じる」	would like O to do[原形]～「Oに～してほしい」
set O to do[原形]～「Oに～させる」	advise O to do[原形]～「Oに～するよう忠告する」

④setはto do[原形]～以外に、doing～、形容詞等、前置詞等もCにとることがある。

(ex) They set the machine going[in motion].

彼らは機械を作動させた

They set prisoners free.

彼らは捕虜を自由にした

I set my affairs in order.

私は身辺を整理した

### 《ポイント》

S+V+O+to do[原形]～型の中でも、特に文法・作文系の問題で頻出の、以下の15個は、しっかりおさえておきたい。

- |                                  |                    |
|----------------------------------|--------------------|
| ①want O(人・物) to do[原形]～          | 「Oに～して欲しい」         |
| ②would like O(人) to do[原形]～      | 「Oに～していただきたい」      |
| ③expect O(人・物) to do[原形]～        | 「Oが～するのを期待する、予期する」 |
| ④enable O(人) to do[原形]～          | 「Oが～するのを可能にする」     |
| ⑤force O(人) to do[原形]～           | 「Oに無理やり～させる」       |
| ⑥allow O(人) to do[原形]～           | 「Oが～するのを許可する」      |
| =permit O to do[原形]～             |                    |
| ⑦tell O(人) to do[原形]～            | 「Oに～するよう言う」        |
| ⑧order O(人) to do[原形]～           | 「Oに～するよう命令する」      |
| ⑨persuade O(人) to do[原形]～        | 「Oに～するよう説得する」      |
| ⑩advise O(人) to do[原形]～          | 「Oに～するよう忠告する」      |
| ⑪ask O(人) to do[原形]～             | 「Oに～するよう求める、頼む」    |
| ⑫cause O(人・物) to do[原形]～         | 「Oに～させる」           |
| ⑬get O(人・物) to do[原形]～           | 「Oに～させる」           |
| ⑭encourage[urge] O(人) to do[原形]～ | 「Oに～するよう促す」        |
| ⑮warn O(人) to do[原形]～            | 「Oに～するよう警告する」      |

ついでに、S+V+O+do[原形]~型の5種類も紹介しておこう。こちらも頻出だ。

- ① make+O+do[原形]~ 「Oに~させる [強制]」 =force+O+to do[原形]~
- ② let+O+do[原形]~ 「Oに~させる [許可]」 =allow[permit]+O+to do[原形]~
- ③ have+O+do[原形]~ 「Oに~させる(してもらおう)」 =get+O+to do[原形]~
- ④ help+O(人)+do[原形]~ 「Oが~するのを手伝う」 =help+O(人)+ to do[原形]~
- ⑤ 知覚動詞+O+do[原形]~ 「Oが~するのを見る[聞く、感じるなど]」

この種の動詞はすべて「Sは、Oが(を)Cするよう仕向ける[方向に向ける]」  
という意味になるのが特徴だ。

⚠このルールの例外にはexpect、知覚動詞、それから forbid O to do[原形]~(Oが~するのを禁じる)などがある。

(ex) He ordered his girlfriend to go there. ⚠「彼は自分のガールフレンドがそこに行く方向に仕向けた」で、  
O C 大枠の意味はとれてしまう。

「C=to do[原形]~」以外の主要動詞の「C」のバリエーションは以下の通りです。

- ① make+O+C C=1.名詞・形容詞・過去分詞 「OをCにする」  
⚠Cに現在分詞を取ることはない。  
2.動詞の原形 「Oに(強制的に)Cさせる」
- ② let+O+C C=1.動詞の原形 「Oに(許可して)Cさせ(てやる)」  
2.形容詞・副詞・前置詞句 「OをC(の状態)にさせる」  
⚠特に、2.の例は珍しいので以下にあげてみた。  
(ex) Let me in[out, through]. 中に入れて[外に出して、通らせて]ください  
(副)  
Don't let the dog loose. 犬を放してはいけません  
(形)
- ③ have+O+C C=1.動詞の原形 「OにCさせる[してもらおう]」  
2.過去分詞 「OをCされる[してもらおう]」  
3.現在分詞 「OにCさせておく」  
4.形容詞 「OをCにする」
- ④ get+O+C C=1.to不定詞 「OにCさせる[してもらおう]」  
2.過去分詞 「OをCされる[してもらおう]」  
3.現在分詞 「OにCさせておく」  
4.形容詞 「OをCにする」
- ⑤ help+O+C C=(to) do[原形] 「OがCするのを手伝う」  
「OがCするのに役立つ[一役買う]」

④ Cの to不定詞は、to が省略され、「動詞の原形」になることも多い。

(ex) I helped him (to) do the job.

私は彼がその仕事をするのを手伝った

⑥ keep[leave]+O+C C = 1.現在分詞 「OをC(の状態)のままにしておく」

2.過去分詞

3.名詞・形容詞

④ keepは「意図[識]的に～のままにしておく」、leaveは「無意識のうちに～のままにしておく」といったニュアンスの違いがある。

これは、keepは「～を(つかんでそのまま)保つ」、leaveが「(～を残して)その場から離れる」がその意味の基本にあるため。

又、leaveの場合、「leave+O+(to) do[原形]～:Oに～させておく」という語法も(用例は多くないが)ある。

(ex) They kept[left] the door open.

彼らはドアを開けっ放しにしておいた

⑦ find+O+C C = 1.現在分詞 「OがCだと思う[わかる]」

2.過去分詞

3.名詞・形容詞

④ 「find O to be C(名・形・分)」という形でOの後ろに不定詞が続くことはある。

⑧ need+O+C C = 過去分詞 「OはCされる必要がある」

⑨ want+O+C C = 1.to不定詞 「Oに～して欲しい」

2.現在分詞 「Oに～して欲しい」 ☞ 否定文で主に用いる。

3.過去分詞 「Oが～されることを望む」

⑩ 知覚動詞+O+C C = 1.動詞の原形 「OがCするのを～する」

2.現在分詞 「OがCしているのを～する」

3.過去分詞 「OがCされるのを～する」

④ 知覚動詞とは「見る」「聞く」「感じる」…など、人間の五感を表す動詞のこと。

④ 知覚動詞は、Cに「to do[原形]～」を取ることはない。

(ex) I saw her go[× to go] there. 私は彼女がそこに行くのを見た

④ 「知覚動詞+O+do[原形]～」と「知覚動詞+O+doing～」の意味的な違いは以下の通り。

① I saw him cross the road. 私は彼が道路を渡るのを見た

② I saw him crossing the road. 私は彼が道路を渡っているのを見た

違いは、「見ている中身」。do[原形]がO(目的語)の後に来る場合、「その行為のはじめから終わりまでを全部見る」ということになる。doing～がO(目的語)の後に来た場合、「その行為を行っているその瞬間を見る」ということになる(つまりその行為の開始～終了するまでを見届けたわけではない

ということになる)。そうすると上の例文の①の場合、彼が道路を渡り始めてから渡り終わるまでの行為全てを見たことになり、②の場合は、道路を渡っているまさにその瞬間(のみ)を見たということになる。

會このような知覚動詞には以下のようなものがある。

see「見る」 feel「感じる」 watch「見る」 perceive「気付く」 hear「聞く」  
smell「臭う」 notice「気付く」 catch「目撃する」 imagine「想像する」

このうち **smell, catch, imagine** は「**C = 現在分詞**」。

① smell O doing～ 「Oが～している臭いがする」

(ex) I can smell the toast burning.

トーストが焦げているにおいがします

② catch O doing～ 「Oが～しているのを目撃する」

(ex) The police caught him (in the act of) stealing.

警察は彼を盗みの現行犯でとりおさえた

The student was caught cheating in the exam.

その学生は試験でカンニングをしているところを見つかった

※上例はcatch O doing～の受動態。

③ imagine O doing～ 「Oが～しているのを想像する」

(ex) Can you imagine my husband cooking for himself?

私の夫が自炊するなんて想像できますか

その理由は「においがわかる」「目撃する」「想像する」という動詞自体が、その瞬間の(その場面の)におい、行為、動作を対象としているから。一番わかりやすいのは「目撃する」。ある行為を目撃するというのは、まさにその瞬間の行為を”見る”ということ(に少なくともその焦点が置かれている)。smell, imagine にしても同じで imagine の場合、頭の中でものを想像するとき、まさにその動作・行為が行われている”瞬間の姿”を脳裏に浮かべるものだから。

## ⑪その他

consider+O +(as/ to be)+C(名詞・形容詞・分詞) 「OをCとみなす」

(ex) They consider me intelligent.

彼らは私のことを利口だと思っている

drive+O+C(形容詞・分詞・to do[原形]～等) 「OをCの状態に追いやる」

(ex) The man almost drove his wife crazy.

その男のために彼の妻は気が狂いそうだった

elect+O+(to be)+C(名詞) 「OをCに選出する」

(ex) The people elected the hero (to be)President.

国民はその英雄を大統領に選出した



- paint[dye]+O+C(色を表す名詞) 「OをCに塗る[染める]」  
 (ex) He painted the wall white.  
 彼は壁を白く塗った
- discover+O+(to be)+C(名詞・形容詞・分詞) 「OがCだと分かる[発見する]」  
 (ex) She discovered the man (to be) a liar.  
 彼女はその男がうそつきだとわかった
- prove+O+(to be)+C(名詞・形容詞・分詞) 「OがCだと証明する」  
 (ex) This letter proves him (to be) still alive.  
 この手紙を見ると彼がまだ生きていることがわかる
- call+O+C(名詞・形容詞) 「OをCと呼ぶ」  
 (ex) He called it unfair.  
 彼はそれは不公平だと言った
- name+O+C(名詞) 「OをCと名付ける」  
 (ex) They named the passenger ship 'The Queen Mary.'  
 彼らはその客船をクイーンメリー号と命名した
- render+O+C(名詞・形容詞) 「OをCにする」 =make O C  
 (ex) Her remark rendered me speechless.  
 彼女の言葉を聞いて私は口がきけなくなった  
 ④ render には「render O<sub>1</sub> O<sub>2</sub>:O<sub>1</sub>にO<sub>2</sub>を与える」という語法もあるので注意。以下はその例。  
 (ex) Mr.Smith rendered him assistance.  
 スミス氏は彼を援助した

《SVO Cをとる他動詞とそのCのバリエーションのまとめ》

Cのバリエーション	それをCに取ることのできる動詞
原形	使役動詞(make, let, have)・知覚動詞・help ④動詞の原形をCにとるのは上記のみ。それだけこの5種類の動詞の語法はしっかりおさえておきたい。
形容詞	make・keep・leave・like・wish・paint・believe・think・find drive・have[使役]・get[使役]・set等
現在分詞	知覚動詞・have[使役]・get[使役]・keep・leave・find・want[否定文で]等
過去分詞	④全ての「SVOC構文」は、OとCの意味関係が受身(OはCされる)になる場合、Cには過去分詞が入る。

語法を間違えやすい動詞。

以下に紹介するものは、語法問題では頻出のものばかりです。  
特に頻出の語については、しっかり整理して覚えたいですネ。

(1) 「S+Vt+O(人)+that節」型の伝達動詞。

tell 「言う」 teach 「教える」 notify 「通知する」 convince 「確信・納得させる」 remind 「注意する」  
warn 「警告する」 inform 「知らせる」 instruct 「指図する」 flatter 「お世辞を言う」  
assure 「保証する」 show 「示す、証明する」 advise 「忠告する」 persuade 「説得して～させる」

Ⓜ特に下線の単語は頻出。この種の動詞はすべて「O(人)に～を伝える[知らせる・教える]」という意味になるのが特徴。

(ex) His expression convinced me that he was guilty.

彼の表情で、私は彼が犯人だと確信した

Tom informed me that the tourists had arrived there.

トムは観光客の一行がそこに着いたと知らせてきた

Ⓜ特に inform の語法は頻出。

① inform A(人) of B(物・事) 「AにBを知らせる」

(ex) I informed Nancy of his financial difficulties.

私はナンシーに彼の財政的苦境のことを知らせた

② inform A(人) that節[疑問詞句・節] 「Aに～を知らせる」

(ex) Inform me where I can get it.

=Inform me where to get it.

それがどこで手にはいるか知らせてくれ

(2) 「人」を目的語に取ることができない伝達動詞。(「S+Vt+[to A(人)]+O」型)

explain 「説明する」 mention 「述べる」 remark 「述べる」 describe 「述べる」  
suggest 「提案する」 confess 「告白する」 admit 「認める」 express 「表明する」  
say 「言う」 propose 「提案する」 prove 「証明する」 announce 「公表する」

Ⓜ特に下線の単語は頻出。それから、もしこれらの動詞の後ろに「人」を置きたい場合は、前置詞の to を用いて「to A(人)」という形にする。

(ex) The man explained to me how he did it.

=The explained how he did it to me.

その男はどうやってそれをしたのかを私に説明してくれた

Ⓜ「人」を目的語に取らない上記以外の頻出の動詞として、apologize が

ある。apologize の語法は以下の通り。

apologize [to A(人)] for B(物) 「[Aに]Bのことで詫びる、謝る」

(ex) Jim apologized for his lateness. ジムは遅刻をわびた

I must apologize to you for not writing for so long.

長い間お便りしなかったことをあなたにおわびしなければなりません

(3) 「S+V+O+to do[原形]～」の型を取りそうで取れない他動詞。

C

hope「希望する」 suggest「提案する」 admit「認める」[admit O to be Cの形は有り得る]

demand「要求する」 propose「提案する」 insist「主張する」 assure「保証する」

㊦ 特に下線の単語は頻出。これらの動詞は [SVO] の形を取る。

(ex) × I hope you to succeed in the exam.

○ I hope that you will succeed in the exam.

私はあなたが試験に合格することを望んでいます

㊦ insist の語法も頻出。

① [insist that S+V～] 「～だと主張する、～を(強く)要求する」

(ex) I insisted to everyone that he was wrong.

私は彼が間違っていると皆に主張した

She insisted that I [should] start at once.

彼女は私がすぐ出発することを強く要求した

㊦ 特に「～を(強く)要求する」という意味の場合、

that節内のV(動詞)は、「should+V[原形]」もしくは

「V[原形]」になる点に注意。

② [insist on A] 「Aを主張する、Aを(強く)要求する」

(ex) He insisted on the importance of keeping word.

彼は約束を守ることが大切だと力説した

He insisted on[upon] my obedience.

彼は私に服従を強要した

=He insisted that I [should] be obedient.

③ [if you insist] 「ぜひともと言うなら」

(ex) A: You must come. ぜひ来てよ

B: Well, if you insist. そう、それほど言うなら(行きますよ)

(4) ask の語法。

① ask A(人) 

B(質問等)	「AにBを尋ねる」
if[whether] S+V～	「Aに～かどうか尋ねる」
疑問詞節(句)	「AにOOを尋ねる」

④ Bに question などが来ると、ask B of A という語順になることもある。  
それから Bに that節が来ることはない。それから A(人) は省略されうる。

(ex) I asked him the place of his birth.  
私は彼に出身地を尋ねた  
I asked my sister whether[if] she was happy.  
私は妹に幸せかどうか尋ねた  
He asked me why I had not come.  
彼は私になぜ来なかったのかと尋ねた

② ask A(人) for B(物) 「AにBを(くれと)求める」

(ex) The man asked me for some money.  
その男は私に金をくれと言った

③ ask for A(物) 「Aを求める」

(ex) She asked for money.  
彼女は金をくれと言った

④ ask A(人) to do[原形]～ 「Aに～するよう求める、頼む」

=ask that A(人)+[should]+do[原形]～

(ex) I asked her to wait.  
私は彼女に待ってくださいと言った  
=I asked that she (should) wait.

⑤ ask A(人) B(望みの物等) 「AにBを求める」

=ask B(望みの物等) of A(人)

(ex) You are asking too much of me.

それは私には無理な注文というものです

④よく似た表現に expect A(望みの物等) of B(人) で「BにAを期待する」がある。

May I ask you a favor?

折り入ってお願いがあるのですが

=May I ask a favor of you?

④同じ意味の表現に Would you do me a favor? がある。

## (5) hope の語法。

① hope to do[原形]～ 「～するのを望む[期待する]」

(ex) I hope to finish it by August.  
8月までにそれを終えたい

② hope for A 「Aを望む[期待する]」

(ex) The girl was hoping for a present from her father.

少女は父親からの贈物を待ちかねていた

③ hope that A+will+do[原形]～ 「Aが～するのを望む[期待する]」

(ex) We're hoping that Jill will do the job for us.

我々はジルが代わりにその仕事をやってくれるのを期待しています

④ hope for A(人) to do[原形]～ 「Aが～するのを望む[期待する]」

(ex) I hope for Jack to come.

ジャックが来ることを望んでいる

=I hope that Jack will come.

×I hope Jack to come.

Ⓢ hope は「望ましいことの実現を希望する」。逆に「望ましくないことを思う・予期する」は be afraid を用いる。

Ⓢ また hope が取れない語法についてもしっかりおさえておきたい。

#### hope がとれない語法

- |                        |  |
|------------------------|--|
| × hope doing～          | → ○ hope to do[原形]～                                    |
| × hope A               | → ○ hope for A   |
| × hope A(人) to do[原形]～ | → ○ hope that A will do[原形]～<br>=hope for A to do[原形]～ |

Ⓢ よく似た意味の expect は、**expect A(人) to do[原形]～**（「Aが～するのを期待する」）  
の語法が許されるだけに要注意。

#### (6) help の語法。

① 「助ける[手伝う]」 という help の頻出語法

1.help A(人) 「Aを助ける」

(ex) We should help poor people.

私達は困窮者[貧しい人々]を助けるべきだ

2.help (to) do[原形]～ 「～するのを手伝う」  
「～するのに役立つ[一役買う]」

(ex) I helped (to) paint the house.

家のペンキ塗りを手伝った

3.help A(人) (to) do[原形]～ 「Aが～するのを手伝う」  
「Aが～するのに役立つ[一役買う]」

(ex) Help me (to) find my wallet.

財布を探すのを手伝ってくれ

Magazine reading helps me (to) pass away the time.

雑誌を読んでいると時のたつのを忘れる[のに役立つ]

☞ help の後ろの to は省略されることが多い。したがって「help+do[原形]～」  
「help+O+do[原形]～」という形には慣れておきたい。

#### 4.help A(人) with B(仕事) 「AのBを手伝う」

(ex) He helped me with my homework.

彼は私の宿題を手伝ってくれた

②「避ける」というhelp ☞この意味の help は「人」を目的語に取らない。

1.cannot help doing～ 「～せずにはいられない」

=cannot but do[原形]～

(ex) She could not help stating her own opinion.

彼女は自身の意見を述べずにはいられなかった

=She could not (help) but state her own opinion.

2.I cannot help it. 「仕方がない」

=It can't be helped.

☞ it は上のように単独で使われる場合には、その場の(漠然とした)状況を指す。  
が以下のように(that節とセットで) it がthat節を指す仮目的語になっている英文もある。

(ex) I can't help it that she doesn't like me.

彼女が私を嫌うのはどうしようもない

#### (7) suggest の語法。

① suggest は第3文型[SVO]を取る

(ex) × I suggested him to go there. ☞ suggestは、基本的に「SVO」しかとらない。

S V O C

○ I suggested that he should go there.

S V O

②人を目的語に取れない

× suggest O<sub>1</sub>(人) O<sub>2</sub>(物)

☞ suggest to A(人) O(物) なら可。このように、suggest は

× suggest O(人) to do[原形]～

「A(人)に(提案する)」という場合、A(人)の前に to がいる。

### ③動名詞を目的語に取る

○ suggest doing～

× suggest to do[原形]～ ☞ 不定詞を目的語に取れない。

### ④ that節を目的語に取ると、that節内は「(should)+do[原形]～」になる

○ suggest that S+(should)+do[原形]～ ☞ should を省略することもできるが、その場合直後の動詞は「原形」の形しておかなければならない。

(ex) I suggested that Kim (should) take a rest.

私はキムに、休息してはどうかと提案した

### ⑤ただし、④のような形になるのは「提案する」という意味の時だけ。「ほのめかず、それとなく言う」という意味の場合は、that節が上記の形になることはない

(ex) Are you suggesting that I am too old?

私が年寄りすぎると言うのですか

### ⑥A(物事) suggest oneself to B(人)「AがBの心に浮かぶ」

=A(物事) occur to B(人) =B(人) hit upon A(物事)

=A(物事) strike B(人)

(ex) A good idea suggested itself to me. ☞ strike の活用は strike - struck - struck。

ある良い考えが僕の心に浮かんだ

## (8)一般動詞の do の(意外な)語法。

### ①[willなどを伴って]「間に合う」「役に立つ」「十分だ」☞このdoは自動詞。

(ex) That will do.

それで結構です[十分です]

Any time before six will do.

6時前ならいつでも結構です

### ②[do A(人) B(益・害など)]「AにBを与える」=do B to A

do A(人) good 「Aのためになる[益になる]」 =do good to A(人)

(ex) This medicine will do you good soon.

=This medicine will do good to you soon.

この薬はあなたにすぐに益を与えるでしょう

→ この薬を飲めばすぐにあなたはよくなるでしょう

do A(人) harm[damage] 「Aに害を与える[及ぼす]」 =do harm to A(人)

(ex) It'll do you no harm to drink a little alcohol.

少々酒を飲んでも害になりません



(9) 4つの「言う」。speak, talk, say, tell。

④最も大切なポイントは

4つの「言う」の中で直後に「人」を目的語にとれるのは、基本的に tell だけ。

ということ。例外的に talk A(人) となることもあります。その場合

talk A(人) into[out of] doing～

という形を必ずとるので見極めはつきやすい。

では、具体的にではそれぞれの「言う」の特徴を見ていくことにしましょう。

### ① speak と talk

speak, talk は自動詞なので、前置詞の助けがなければ、後ろに目的語になる名詞は取りません。

- |             |  |
|-------------|--|
| × speak him | ○ speak to[with/aboutなど] him<br>彼に(と/について)話をする |
| × talk him  | ○ talk to[with/aboutなど] him<br>彼に(と/について)話をする  |

speak が例外的に後ろに名詞をとることもありますが、それは以下のような決まった語句と共に使われる場合のみです。

- speak English 英語を話す  
speak words 言葉を発する  
speak the truth 真実を言う      ☞ speak the truth は頻出。

talk も、「人」を直後にとることがありますが、その場合以下のような決まった形で使われます。

- talk A(人) into doing～ 「Aを説得して～させる」  
talk A(人) out of doing～ 「Aを説得して～するのをやめさせる」

④上記の表現の意味の覚え方は、into, out of という前置詞を引っ掛かりにするとい。into は「～の中に」。つまり「→」で表せる。逆に out of は「～から」。つまり「←」で表せる。だから talk A(人) into doing～ は「Aに話をして～する方向に仕向ける ⇒ Aを説得して～させる」、talk A(人) out of doing～ は「Aに話をして～する方向から遠ざける(しない方向に仕向ける) ⇒ Aを説得して～するのをやめさせる」と考えた方がいい。

### ② say と tell

say, tell は他動詞で、共に直後に目的語になる名詞を必要とするのですが、say は、「人」を目的語に取れないのに対して、逆に tell は「人」しか目的語に取れ

ません。

○ say [to A(人)] ○(言葉・話す内容) ☞ sayは「言葉・話す内容」を目的語に取る。

× say ○(人) ☞ 左のようにsayは「人」を直接目的語に取れない。

○ tell O<sub>1</sub>(人) O<sub>2</sub>(事):O<sub>1</sub>にO<sub>2</sub>について話す ☞ 左のようにtellは必ず「人」を目的語に取る。

○ tell ○(人) about~:○に~について話す

(ex) He told me about the accident.

☞ He told me the accident. とは言わない。直接目的語(tell O<sub>1</sub> O<sub>2</sub> の O<sub>2</sub>)になる名詞は、それ自体が話す[語る]内容を含んだものに限られる。以下のような言い方は可。

(ex) He told me the secret[the facts, the story, his name].

彼はその秘密[事実・話・彼の名前]について話した

○ tell ○(人) that S+V~

○ tell ○(人) to do[原形]~

× tell that S+V~ ☞「言う」というtellがthat節のような「物事」だけを目的語に取ることはない。

× tell to A(人) that S+V~ ☞「言う」というtellは「人」が目的語に必要。前置詞のtoなどは必要ない。

tellが「人」以外を目的語にとることもありますが、それは以下のような決まった形[表現]でのみです。

tell the truth 真実を話す      tell a lie ウソをつく

tell a story 物語(話)を語る      tell a joke 冗談を言う

それから tell には「区別[識別]する／分かる」という意味もあり、この意味では「人」以外も目的語に取れます。この tell は distinguish で言い換えられます。

can tell A(人・物) Aが[だと]わかる、識別する

tell A from B AとBを区別する

tell the difference between A and B AとBの違いがわかる

tell the time 時刻がわかる

tellが「言う」なのか、「区別する／分かる」なのかの見極め方は以下の通り。

1. 「区別する／分かる」という tell は can(not)とセットで使うことが多い。
2. 「言う」という tell は「人」しか基本的に目的語に取れないが、「区別する／分かる」という tell は「人」「物(事)」どちらも目的語に取れる。疑問詞節や that節、whether節を目的語に取ることもある。

(ex) I can't tell why he did it. なぜ彼がそれをしたのか分からない

S      V                      O

(10) blame の語法。

①[blame A for B]

1. 「B(過失など)の理由でA(人)を非難する、責める」 = accuse A(人) of B(理由)  
= charge A(人) with B(理由)  
= condemn A(人) for B(理由)  
= criticize A(人) for B(理由)

(ex) They blamed him for having left there.

そこを離れたことで彼らは彼を責めた

=They accused him of having left there.

會ちなみに accuse A(人) of B(犯罪) で「B(の理由)でAを告訴[起訴]する」という意味もある。

(ex) She accused him of murder. 彼女は彼を殺人罪で訴えた  
the accused となると「被告(人)、被疑者」。

2. 「B(過失・責任など)をA(人)のせいにする」 = blame B on A  
= charge B on A

(ex) The police blamed the conductor for the accident.

警察は事故の責任を車掌に帰した(のせいにした)

=The police blamed the accident on the conductor.

②[A be to blame (for B)] 「Aは(Bに対して)責任がある」 = A is responsible for B

(ex) He is to blame for the accident.

その事故の責任は彼にある

(11) provide の語法。

會 pro(前もって)+vide(見る) →「先を見て備える」

① [provide A(人) with B(物事)] 「AにBを与える、供給(提供)する」  
[provide B(物事) for A(人)] 「 " " 」

(ex) We provided them with food.

私たちは彼らに食料を与えた

=We provided food for them.

會 with が省略され、「SVO<sub>1</sub>O<sub>2</sub>」になることもある。

(ex) They provided the house all the modern conveniences.

彼らはその家には現代の便利な設備すべてを備えてあった

② [provide for A]

1. 「A(将来起こること)に備える、準備する」

☞ 未来の出来事・安全などへの準備の時は for、攻撃・不足などの非常時に備える時は against が用いられる。

(ex) We must provide for[against] a rainy day.

まさかの時に備えておかねばならない

2. 「Aを扶養する」

「Aに生活の必要物を供給する」

(ex) She had three children to provide for.

彼女は3人の子供を養っていかねばならなかった

The old pair were well[poorly] provided for.

老夫婦は生活に不自由していなかった[困っていた]

(12) 目的語に取る語句が限定されている他動詞。

① 「参加する」

1.attend ○(活動・会合・機関)

(ex) I attended the meeting. 私はその会合に参加[出席]した

2.participate in ○(活動・会合・機関)

(ex) I participated in an international convention. 私は国際大会に参加した

3.join ○(人・人の集団) ☞ join は「人間」も目的語に取れる!

(ex) Won't you join us in a walk? (私達と)一緒に散歩しませんか

Tom wants to join our Ski Club.

トムは私達のスキ一部に入りたがっている

② 「勝つ」

1.win ○(試合・賞) ☞ win(勝つ)とlose(負ける)は、「人間・(試合の)相手等」を目的語に取れない点に注意せよ!

(ex) Oxford won[lost] the match to Cambridge by a score of 2-0.

オックスフォードはケンブリッジに2対0でその試合に勝った[負けた]

☞ win の活用は win - won - won 。

lose の活用は lose - lost - lost 。

They are training hard to win the race.

彼らは競走に勝つために懸命に練習している

He won the first prize in the game.

彼は競技で1等賞を獲得した

## 2.defeat O(対戦相手)

(ex) They defeated[×won] **our team** by 2-0.

彼らは2対0で我がチームに勝った

He defeated[×won] **his opponent** at tennis.

彼はテニスで相手を破った

## 3.beat O(対戦相手) =defeat

(ex) I beat[×won] **him** at golf.

彼をゴルフで負かした

☞ beat の活用は beat - beat - beat。

### 《ポイント》

win/lose の目的語は「試合」「賞」であり、「人」や「対戦相手」は目的語に取れない。

それに対して beat/defeat の目的語は「人」「対戦相手」になる。

## ③「盗む(steal)」と「奪う(rob)」

1.steal **A(物)** from **B(人・場所)** 「BからAを盗む」

(ex) He stole the purse from the old lady.

彼は老婦人からハンドバッグを盗んだ

☞ steal の活用は steal - stole - stolen。

2.rob[deprive] **A(人・場所)** of **B(物)** 「AからBを奪う」

(ex) He robbed the old lady of her purse.

彼は老婦人からハンドバッグを奪った

☞ rob の活用は rob - robbed - robbed。

### 《rob と deprive の違い》

ちなみに rob と deprive の違いは、rob の場合、その目的語は「被害を被る人[場所]」である点。つまり rob は「(不法な手段を用いてでも無理やり奪い取る」。

☞ robber は「強盗、泥棒」、robbery は「強盗事件」という意味。

それに対し、deprive は、(rob と違って)中立的な語で必ずしも

不法手段を用いて(奪う)ことを意味しない。

(ex) Too many trees deprive a house of light.  
木が多すぎると家に光がささない

#### ④「感謝する(appreciate と thank)」

1.appreciateは「物」しか目的語に取れない。

(ex) ○ I appreciate your kindness. ☞ appreciate は「物」しか目的語にとれない。  
× I appreciate you for your kindness.

2.thankは「人」しか目的語に取れない。

(ex) ○ Thank you for your kindness. ☞ thank は「人」しか目的語にとれない。  
× Thank your kindness.                      thank A(人) for B(物事)で「BのことでAに感謝する」。

☞ thank は、thankful と形容詞になった場合も(toの後ろの)Aには「人」がくる。  
「be thankful[obliged/ grateful] to A for B: B(物事)についてA(人)に感謝している」という語法になる。

(ex) I am thankful[obliged] to you for your kindness.  
ご親切ありがたく存じます

☞ appreciate については以下の語法も頻出。非常に丁寧な依頼を表す表現。

I would appreciate it if you could[would]+do[原形]～  
～していただければ幸いです

※it は if 節の内容を受ける。この it の省略は不可。

(ex) I would appreciate it if you could[would] agree to my plan.  
私の計画にご承認をいただければ幸いです

#### レクチャー5

意味や活用などが紛らわしい動詞。

(1)活用の一部が同じなため、間違えやすいもの。

① fall - fell - fallen 「倒れる」                      [自]

fell - felled - felled 「(木を)切り倒す」 [他]

(ex) The pencil fell off the dashboard.

鉛筆がダッシュボードから落ちた

They felled the old dying cherry tree.

彼らはその古い枯れかかった桜の木を切り倒した

② lie - lay - lain - lying 「横たわる」「ある(いる)」 [自] =lay oneself

lay - laid - laid - laying 「横たえる」「(卵を)生む」 [他]+O(名)

lie - lied - lied - lying 「嘘をつく」 [自]

(ex) I lay on the grass.

=I laid myself on the grass.

私は草の上に横になった

The mother laid her baby on the sofa.

その母親は赤ん坊をソファに横たえた

Our hens lay eggs every day.

うちの鶏は毎日卵を産む

You should never lie to me again.

君は私に二度と嘘をついてはいけない

《ポイント》

lie は「横たわる、ある」という自動詞。したがって後ろに目的語を取らない。lay は「～を横たえる、(卵を)生む」という他動詞。したがって後ろに目的語を必要とする。

「嘘をつく」という lie は自動詞で、lie to A (Aに嘘をつく)という形で用いられることが多い。

③ find - found - found 「見つける」「わかる」

found - founded - founded 「創設する」

cf; fine - fined - fined 「罰金を科す」

(ex) We found the animal in Australia.

我々はオーストラリアでその動物を見つけた

Our school was founded in 1920.

我々の学校は1920年に創立された

④ see - saw - seen 「見る」「わかる」

saw - sawed - sawed 「のこぎりでひく」 saw には「のこぎり」とい名詞の意味もある。

(ex) I saw a cat cross the street.



ネコが道路を渡るのが見えた

Can you see the log in half?

その丸太を半分に(のこぎりで)切れますか

⑤ wind - wound - wound 「巻く」「曲がりくねる」

🗨 wound の発音は「ワウンド」

wound- wounded - wounded 「傷つける」

🗨 wound(ed) の発音は「ウーンド(イド)」

(ex) The river wound through the valley.

その川は谷を蛇行していた

The soldier was badly wounded in the fight.

その兵士は戦いでひどい傷を負った

⑥ bind - bound - bound 「縛る」「束ねる」「束縛する」

「(精神的に)団結させる」

bound - bounded - bounded 「跳ねる」

(ex) The criminals were bound hand and foot.

犯人達は手足を[がんじがらめに]縛られた

His heart bounded with joy.

彼の胸は喜びで踊った

cf; be bound(形) to do[原形]～

①「必ず～するだろう」=be sure to do[原形]～

(ex) It's bound to rain.

きっと雨が降るだろう

②「～すべきだ」「～する義務がある」=should

(ex) He was in duty bound to see this thing through.

彼は義務上この事をやり通さなければならなかった

③「～する決心だ」

(ex) I'm bound to go whatever they say.

彼らが何と言おうと私は行くことに決めています

be bound(形) for A 「A(場所)行きである」

(ex) The plane is bound for London.

その飛行機はロンドン行きだ

(2)形が似た動詞と活用を混同しやすいもの。

- ① fly - flew - flown 「飛ぶ」  
flow - flowed - flowed 「流れる」  
frown - frowned - frowned 「まゆをしかめる」

(ex) He flew from London to Tokyo.

彼は飛行機でロンドンから東京へ飛んだ

The Thames flows into the North Sea.

テムズ川は北海に注ぐ

He frowned at me.

彼は不機嫌な顔で私を見た

- ② welcome - welcomed - welcomed 「歓迎する」  
overcome - overcame - overcome 「克服する」

(ex) He was warmly welcomed.

彼は温かく迎えられた

He overcame the enemy.

彼は敵に勝った

- ③ rise - rose - risen 「上がる」「昇る」 [自]  
raise - raised - raised 「上げる」「育てる」 [他]  
arise - arose - arisen 「生じる」「起こる」 [自]  
arouse - aroused - aroused 「刺激する」 [他]  
rouse - roused - roused 「元気づける」 [他]

(ex) The accident arose from a simple mistake.

その事故は単なる過失から起こった

The book aroused my interest in history.

その本は僕の歴史に対する興味をかきたてた

The cries roused our fear.

その叫び声は我々の恐怖をかきたてた

- ④ see - saw - seen 「見える」  
saw - sawed - sawed 「のこぎりでひく」  
sew - sewed - sewed 「縫う」  
sow - sowed - sowed 「種をまく」

(ex) I saw the man run away.

私はその男が逃げるのを見た

He sewed branches off (the tree).

彼は(木から)枝をのこぎりで切り落した  
She was sewing a dress.  
彼女は服を縫っていた  
He sowed wheat in the field.  
彼は畑に小麦をまいた

(3)意味によって活用が違うもの。

- ① fly - flew - flown 「(空中を)飛ぶ、飛行する」  
fly[flee] - fled - fled 「逃げる」

(ex) Did you ever fly ?  
飛行機に乗ったことがありますか  
The criminal fled the country.  
犯人は国外に逃亡した

- ② hang - hung - hung 「つるす」「掛ける」  
hang - hanged - hanged 「絞首刑にする」

(ex) I hung curtains at the window.  
窓にカーテンを掛けた  
The man was hanged for murder.  
その男は殺人罪で絞首刑になった

- ③ lie - lay - lain 「横たわる」「ある」 ㊦ 現在分詞形は両方ともlying。  
lie - lied - lied 「嘘をつく」

(ex) He lay on his back.  
彼はあおむけになった  
She lied about the matter.  
その件について彼女はうそをついた

- ④ shine - shone - shone 「輝く」「照る」  
shine - shined - shined 「みがく」

(ex) The moon shone on the water.  
月が水面を照らした  
He shined his own shoes before going out.  
出かける前に自分で靴を磨いた

(4)意味の違いや自動詞、他動詞の区別が狙われるもの。

- ① sit 「座る」 [自]  
seat 「～を座らせる」 [他+O(名)] ☞ seat は他動詞！目的語を必要とする。

(ex) He sat down on the sofa. ☞sit の活用は sit - sat - sat 。  
彼はソファに座った seat の活用は seat - seated - seated 。  
=He seated himself on the sofa.  
=He was seated on the sofa.

《ポイント》

したがって、他動詞の seat を使って「座る」とするためには、seat oneself  
[又は be seated ]としなくてはならない。

- ② lie - lay - lain - lying 「横たわる」「ある」[自]

(ex) lie in the sofa ソファに横になる  
lie motionless 動かないままにいる ☞ lie C(形・分)で「Cのままにいる」。  
☞lieは自動詞なので、後ろに目的語を取らない。なお直後に形容詞・分詞をC(補語)として取って「Cのままにいる」という語法もある。

lay - laid - laid - laying 「～を横たえる」「(卵を)生む」[他+O(名)]

(ex) lay the bat バットを横たえる  
lay eggs 卵を生む  
☞layは他動詞なので、後ろに目的語になれる名詞を必要とする。また、layを使って「横たわる」とするためには、lay oneself  
[又はbe laid]としなくてはならない。

lie - lied - lied - lying 「ウソをつく」 [自]

☞このlieも自動詞。「lie to A(人):Aにウソをつく」という形になることが多い。

- ③ rise - rose - risen 「上がる」 [自]  
raise - raised - raised 「～を上げる」「～を育てる」[他+O(名)]

- ④ carry 「～を運ぶ」 ☞ carry は、take と比べ、「(物を)運ぶ」という行為に  
take 「～を持って[連れて]行く」 主眼が置かれる。  
bring 「～を持って[連れて]来る」  
fetch 「～を行って取って[連れて]来る」

(ex) He carried the box upstairs.  
彼は箱を2階へ運んだ  
Please take these letters to your sister.  
この手紙をお姉さんに持って行ってください  
Bring your camera to school.  
君のカメラを学校へ持って来てね

He fetched the book from the room.

彼はその部屋から本を持ってきた

《ポイント》

fetch は「行って取ってくる」というUターンの動きを表す。

- ⑤ remember 「～を思い出す、覚えている」 = recollect, recall, be reminded of  
 remind 「～に(…を)思い出させる」

remind A(人)	{	「Aに思い出させる、気付かせる」
		of B(物事) 「AにBを思い出させる」
		that S+V～ 「Aに～を思い出させる」
		to do[願形]～ 「Aを注意して～させる」

《ポイント》

1.remind A(人) to do[願形]～ の to do[願形]～部分は、「未来(これから先)」の内容になる。

2.remindの目的語は「人間」になる。

それに対し、remember は主語に「人間」を取る。

remember のように、発言や思考・認識、知覚に関する動詞は、基本的に主語に「人間」を取る(具体的には persuade(説得する) forget(忘れる) など)。

(ex) I'll always remember your kindness.

ご親切はいつまでも忘れません

That reminds me.

そうそうそれで思い出した

The photo reminded him of his happy childhood.

その写真は彼に楽しかった子供のころを思い出させた

My wife reminded me that I must write to him.

妻は私に彼に便りを出すようにと注意してくれた

The photo reminded me to write to my friend.

その写真を見て友人に便りを出すことを思い出した

- ⑥ surprise A(人) 「Aを驚かす」 [他+O(名)] = amaze, astonish, alarm, startle, astound  
 marvel[wonder] at A(物事) 「Aに驚く」 [自]

(ex) I was surprised at the news.

私はその知らせに驚いた

=I marveled at the news.

☞ surpriseは「驚く」という意味で使う場合には受け身にする必要がある。

☞ marvel[wonder] は、that節を目的語に取って「～ということに驚く」と

いう、他動詞の語法もある(that は省略できる)。

(ex) I marveled (that) he had escaped unhurt.

彼が無傷で脱出できたことには驚いた

I wonder (that) they did not get angry to hear that.

彼らがそれを聞いて怒らなかったのは不思議だ[驚きだ]

⑦ put on A 「Aを着る」

wear A 「Aを着ている」

(ex) You should put your coat on.

コートを着た方がいいですよ

She always wears white.

彼女はいつも白い服を着ている

She is wearing a blue blouse today.

彼女は今日は青いブラウスを着ている

《ポイント》

put on A は「着る」という一回の動作、行為を表す。

wear A は「着ている」という状態を表す。一時的に身につけてるという意味では be wearing も可。

⑧ insist on A 「Aを主張する」

persist in A 「Aに固執[執着]する」

⑨ wake - woke - waken

1.[自動詞として]「起きる、目が覚める」

(ex) He woke at five.

彼は5時に目が覚めた

2.[他動詞として]「～の目を覚ます、起こす」

(ex) Please wake me (up) at five.

5時に起こしてください

awake 1.[形容詞として]「起きている、目が覚めている」

(ex) He lay awake for a long while.

彼は長いこと目を覚まして横になっていた

2.[主に自動詞として]「起きる、目が覚める」 awake - awoke - awoken

(ex) He awoke before dawn.

彼は夜明け前に目が覚めた

awaken - awakened - awakened [主に他動詞として] 「(人に)～を気付かせる

(ex) The affair awakened him to a sense of his position. [自覚させる]

その問題は、彼に自分の地位の重大さを悟らせた

⑩ doubt と suspect

1.doubt

① doubt は don't think(「~でないと思う」)と同じ。

したがって don't doubt は think(「~だと思う」)と同じ。

2.suspect

① suspect は think(「~だと思う」)と同じ。

したがって don't suspect は don't think(「~でないと思う」)と同じ。

(a) 「彼は自分がだまされたのではないかと疑った」

He ( ) that he had been deceived[だまされた].

(b) 「彼が明日ここに来るのは疑わしいものだ」

I ( ) that he will come here tomorrow.

正解:(a)suspected (b)doubt

レクチャー6

lie & lay rise & raise

(1) lie(横たわる) と lay(~を横たえる)。

lie は「横たわる」「~である」という意味の自動詞ですが、lie(ラアイ)の「ア」と「横たわアる」「ある(存在する)」、つまり同じ「ア」つながりとなるところを引っ掛かりにして、その意味を覚えてしまいましょう。

① lie - lay - lain - lying という活用もしっかり覚えよう。

lay は「~を横たえる」という意味の他動詞ですが、lay(レイ)の「エ」と「~を横たえる」、つまり同じ「エ」つながりとなるところを引っ掛かりにして覚えてしまいましょう。

① lay の活用は lay - laid - laid - laying。say( say - said - said ) や pay( pay - paid - paid ) の活用のパターンと同じなのでわかりやすい。s や p が l に変わっただけと見たらいい。

① lay の場合、「(タマゴを) 生む」という意味もあり、こちらも要注意。

(ex) Our hens lay lots of eggs every day.

うちのめんどりは毎日たくさん卵を産む

そして、「横たわる」というのは「自分」が横になるわけで自動詞。「~を横た



える」というのは「自分以外、つまり**他者**」を横にする(横たえる)わけで、こちらには**他動詞**、と覚えてしまいましょう。

(ex) The boy lay down on the grass.

その少年は芝生の上に横になった

=The boy laid himself on the grass.

=The boy was laid on the grass.

Ⓢ lay を使って「横たわる」とするためには、lay oneself[又はbe laid]としなくてはならない。

The machine has lain unused for long years.

その機械は長年使用されないでいる

Ⓢ lie C で「C(の状態)でいる、ある」。Cには「形容詞」「分詞」「前置詞+名詞」など。

He laid his coat on the bed.

彼はコートを手帳の上に置いた

They laid a carpet on the floor.

彼らは床にじゅうたんを敷いた

それから lie には「嘘をつく」という意味もありますが、**この lie も自動詞**で

lie to A(人): Aに嘘をつく

という形で用いられるのが大半です。つまり空欄の後ろに「to A(人)」という形があれば、「嘘をつく」という lie が正解に入ると見たらいいでしょう。

(ex) Don't lie to me.

私にうそをつくな

My son lied about the matter.

息子はその件についてうそをついた

Ⓢ 「嘘をつく」という lie の活用は lie - lied - lied - lying 。

Ⓢ 自動詞は後ろに目的語になれる名詞を取らず、逆に他動詞は必ず後ろに目的語になれる名詞を取るんだ。つまり文法問題などでは、空欄の後ろに目的語になれる名詞がなければ lie(の仲間)を、あれば lay(の仲間)を入れればいいということになる。

(2) rise(上がる) と raise(～を上げる)。

rise と raise も同じ要領で覚えてしまいましょう。

rise は「上がる」という意味の自動詞ですが、rise(ライズ)の「ア」と「上がア

る」、つまり同じ「ア」つながりとなるところを引っ掛かりにして、その意味を覚えてしまいましょう。

raiseは「～を上げる」「～を育てる」という意味の他動詞ですが、raise(レイズ)の「エ」と「～を上げエる」「～を育てエる」、つまり同じ「エ」つながりとなるところを引っ掛かりにして覚えてしまいましょう。

そして、「上がる」というのは「自分」が(上に)上がるわけで自動詞。「～を上げる」「～を育てる」というのは「自分以外、つまり他者」を上げる[育てる]わけで、こちらは他動詞、と覚えてしまいましょう。

(ex) The moon was rising above the mountain.

月が山の上に昇っていた

Mr. Smith rose from his chair.

スミス氏はいすから立ち上がった

☞ rise の活用は rise - rose - risen 。

If you have any question, raise your hand.

何か質問があったら手を上げなさい

They raise cattle on their farmland.

彼らは農地で牛を飼育している

He raised a question at the meeting.

彼は会合で質問をした

☞ rise、raise の文法問題における見極め方は先程と同じように、空欄の後ろに目的語になれる名詞がなければ rise(の仲間)を、あれば raise(の仲間)を入れればいい。

☞ rise、raise によく似た動詞に以下のようなものがある。

- ① arise - arose - arisen 「生じる」「起こる」 [自]
- ② arouse - aroused - aroused 「(人を目覚めさせる、起こす) [他]  
=rouse - roused - roused 「(人を鼓舞する、元気づける)  
「(感情などを)刺激する、かきたてる」

(ex) The accident arose from a simple mistake.

その事故は単なる過失から起こった

The book aroused my interest in history.

その本は僕の歴史に対する興味をかきたてた

The cries roused our fear.

その叫び声は我々の恐怖をかきたてた

自動詞と他動詞で意味が変化するもの。

(1)[自] yield to A(名) 「Aに屈する」 =surrender to A, submit to A

(ex) They'll never yield to force.

彼らは決して暴力に屈しないだろう

[他] yield O(名) 「Oを生み出す」 =produce O(名)

(ex) Our new business yields big profits. ④他動詞の yield には「～を明け渡す」という意味もある。

我々の新しい仕事は相当利益を上げている

(2)[自] submit to A(名) 「Aに屈する」「Aに従う」

(ex) The player submitted to the umpire's decision.

その選手は審判の判定に従った

[他] submit O(名) 「Oを提出する」 =hand in A(名), turn in A(名)

(ex) I submitted the report to my boss yesterday.

昨日先生にそのレポートを上司に提出した ④他動詞の submit には「～に従わせる」という意味もある。

(3)[自] allow for A(名) 「Aを考慮する」 =consider A(名), take A(名) into account

(ex) We had better allow for some delay.

多少の遅れを考慮した方がいい

[他] allow O(名) to do[原形]～ 「Oが～するのを許す」 =let O do[原形]～

(ex) This money will allow me to buy a new car.

このお金のおかげで新車を買えます

(4)[自] attend to A(名) ① 「A(仕事)に専念する」

② 「A(話)を注意して聞く」

③ 「A(人)の世話をする」

(ex) Attend to your studies.

勉強に精を出しなさい

We should attend to his speech.

彼の話に注意して聞くべきだ

Who is attending to this patient?

誰がこの患者の世話をしているのですか

[他] attend O(名) ①「Oに出席する」  
②「O(人)の世話をする」

(ex) We attend the lecture.

私達はその講義に出席した

She attended the patient.

彼女はその病人の世話をした

(5)[自] run ①「走る」②「流れる」③[run C(形・分)]「Cになる」  
④「(性格などが)遺伝する、伝わる」

(ex) The river ran dry.

川の水が干上がった

Drinking water is running short.

飲料水は不足しかかっている

A: She has quite a temper. 彼女はとっても気が短いね

B: Sure, it runs in her family. そうです。親ゆずりです

[他] run O(名) ①「Oを経営する」=manage O(名)  
②[run a riskで]「危険を冒す」

(ex) He runs a CD shop in Tokyo.

彼は東京でCDショップを経営している

(6)[自] stand ①「立っている」②「いる、ある」③「支持する」

(ex) The castle stands on the hill.

その城は丘の上にある

The back door stood open.

裏口は開いていた

We stand for free trade.

我々は自由貿易を支持する

[他] stand O(名) ①「Oを我慢する、耐える」②「Oに抵抗する」

(ex) I cannot stand such hot weather.

私にはそのような暑さは耐えられない

(7)[自] associate with A(名)「Aと交流する、交際する、提携する」

(ex) You had better not associate with dishonest people.

不正直な人たちとは交際ない方がいい

[他] associate A(名) with B(名)「AをBと結びつけて考える、関連させる」

(ex) We associate the name of Einstein with the theory of relativity.

我々はアインシュタインと言えば相対性理論を連想する

We associated the person with us in the attempt.

我々はその人をその企ての仲間に入れた

(8)[自] prove (to be) C(形・分・名) 「Cだと判る、判明する」

(ex) The new machine proved (to be) useless.

新しい機械は役に立たないことがわかった

[他] prove O(名) 「Oを証明する」

(ex) How can you prove the truth of what she says?

彼女の言葉が本当だということをどうして証明できるのか

(9)[自] turn out (to be) C(形・分・名) 「Cだと判る、判明する」

(ex) What they said turned out (to be) true.

彼らがいっていることは嘘ではないことが判明した

[他] turn out O(名) 「Oを生み出す、生産する」 =produce O(名)

(ex) This university has turned out competent researchers.

この大学は有能な研究者を世に送り出してきた

(10)[自] become C(形・分・名) 「Cになる」

(ex) My son became a teacher.

息子は教師になった

[他] become O(名) 「Oに似合う、似付かわしい」 =suit O(名)

(ex) Such behavior doesn't become you.

そのような振る舞いは君には似合わない

(11)[自] pay 「割に合う[得になる]」

(ex) War doesn't pay.

戦争は(勝っても負けても)割に合わない

[他] pay A(名) for B(名) 「A(金額)をB(人・品物)に支払う」

(ex) I paid 1000 dollars for him.

彼に1000ドル支払った

I paid 100 dollars for a round-trip ticket to Sheffield.

シェフィールドまでの往復切符代に10ドルを支払った

(12)[自] answer for A(名) 「Aの責任をとる」

(ex) Parents must answer for their children's conduct.

親は子供の行動に責任を持たねばならない

[他] answer O(名) 「Oに答える」

(ex) He answered the problem easily.

彼はその問題にたやすく答えた

(13)[自] add to A(名) 「Aを増す」 =increase O(名)

(ex) This will surely add to your appetite.

これできっと食欲が増しますよ

[他] add A(名) to B(名) 「AをBに加える」

(ex) He added a little sugar and milk to his tea.

彼は紅茶に砂糖とミルクを少し加えた

(14)[自] enter into A(抽象的なこと・活動) 「Aに取りかかる、加わる、参加する」

(ex) I entered into conversation with him.

私は彼と会話を始めた

They entered into a contract with the firm.

彼らはその会社と契約を結んだ

[他] enter A(場所) 「Aに入る」

(ex) He entered the room by the back door.

彼は裏口から部屋に入った

☞ He enter into the room とは言わない。「レクチャー2」を参照せよ。

## レクチャー8

### 使役動詞のまとめ。

使役動詞とは、「～に…させる」という意味を持つもの。

具体的には make, let, have, get の4つがあります。

それぞれの語法、更に make と let については、そのニュアンスの違いまで、よく問われます。

(1) make と let.

①  $\text{make} + \text{O} + \text{do}[\text{原形}] \sim$  「Oに(強制的に)～させる」 =  $\text{force O to do}[\text{原形}] \sim$   
C C

(ex) I made my son clean the room. 私は息子に部屋の掃除をさせた  
O C[原形]

Ⓜただし、主語が「物事」の場合には「強制」の意味はないことが多い。

(ex) His words made me get angry.

彼の言葉を聞いて腹が立った

Ⓜなお、make にはCに「名詞」「形容詞」などをもって「OをCにする」という用法もある。

(ex) His father made him a baseball player. 彼の父は彼を野球選手にした  
O C(名)

I will make you happy. 僕は君を幸せにするよ  
O C(形)

Ⓜまた「make+oneself+過去分詞」で「自分自身を～してもらう」も、語法問題では頻出。 O C

Cに入る過去分詞では、以下の3つが頻出。

- ・make oneself understood 「自分自身のこと[考え]を理解してもらう」
- ・make oneself heard 「自分自身のこと[話・声]を聞いてもらう」
- ・make oneself known to A(人) 「Aに自己紹介をする」

(ex) I couldn't make myself understood in English.

私は英語で自分自身(の考え)を理解してもらうことができなかった  
→ 英語で用が足せなかった

I couldn't make myself heard because the students were so noisy.

私は自分自身の声を聞いてもらえなかった[自分の声が届かなかった]。  
というのは生徒があまりに騒々しかったからだ

②  $\text{let} + \text{O} + \text{do}[\text{原形}] \sim$  「Oに(許可して)～させる」 =  $\text{allow} + \text{O} + \text{to do}[\text{原形}] \sim$   
C C

(ex) My parents finally let me study abroad.

ついに両親は私が留学するのを許してくれた

=My parents finally allowed me to study abroad.

Ⓜ let はCに原形を取るが、allow はCにto不定詞を取る点に注意！



(2) have と get.

① have+O+  $\left\{ \begin{array}{l} \text{do[原形]} \sim \text{「Oに}\sim\text{させる[してもらう]} \\ \text{C} \\ \text{p.p.} \quad \text{「Oを}\sim\text{される[してもらう]} \text{ (注)p.p.=過去分詞のこと。} \\ \text{C} \quad \text{※使役の have には「have+O+doing}\sim\text{」で「Oに}\sim\text{(自由に)させておく} \text{」という用法もある。} \\ \text{have+O+p.p. の場合、「(自分が)Oを}\sim\text{してしまう} \text{」という意味になることもある。} \end{array} \right.$

② get+O+  $\left\{ \begin{array}{l} \text{to do[原形]} \sim \text{「Oに}\sim\text{させる[してもらう]} \\ \text{C} \\ \text{p.p.} \quad \text{「Oを}\sim\text{される[してもらう]} \\ \text{C} \quad \text{※ get+O+p.p. の場合、「(自分が)Oを}\sim\text{してしまう} \text{」という意味になることもある。} \end{array} \right.$

《ポイント》

Cに何を入れるかは、OとCの意味関係で決まる。つまりOとCが能動(「OはCする」)の意味関係なら、Cにはhaveであれば「原形(又は～ing)」、getであれば、「to不定詞」が入る。逆に、OとCが受身(「OはCされる」)の意味関係になる場合は、haveもgetも過去分詞をCに取る。

《Cの見極め方》

O : C = 能動(「OはCする」) ⇔ C = ①動詞がhaveなら「原形(又は～ing)」  
②動詞がgetなら「to不定詞」。

O : C = 受身(「OはCされる」) ⇔ C = 過去分詞

《演習》空欄中で、正しい形となるものを選べ。

1. I had my house (paint/ painted/ to paint) green.
2. I had my son (carry/ to carry / carried) the baggage for me.
3. I had my son (kill/ killed/ to kill) in the war.
4. I got my husband (give/ to give/ given) up smoking.
5. I got the photo (take/ to take/ taken) by my friend.
6. I won't have you (saying/ say/ said/ to say) such things about my son.

【解答】 1.painted 2.carry 3.killed 4.to give 5.taken 6.saying

【解説】 1.«O」と「C」である「私の家」と「paint(ペンキで塗る)」の関係は受身(家は人によって塗られるもの)。

《訳》「私は家を緑色に塗ってもらった」

2. 「O」と「C」である「私の息子」と「carry(運ぶ)」の関係は能動(息子が運ぶ)。

《訳》「私は息子に荷物を運ばせた」

3. 「O」と「C」である「私の息子」と「kill(殺す)」の関係は受身(息子は殺された)。

《訳》「私は息子を戦争で亡くした」

4. 「O」と「C」である「私の夫」と「give up(やめる)」の関係は能動(夫がたばこをやめる)。

《訳》「私は夫にたばこをやめさせた」

5. 「O」と「C」である「写真」と「take(撮る)」の関係は受身(写真は人によって撮られるもの)。

《訳》「私は友人に写真を撮ってもらった」

6. 「O」と「C」である「あなた」と「say(言う)」の関係は能動(あなたが言う)だが、この場合のように「Oに～させておく(するままだせておく)」という意味になる場合には「C」には「現在分詞(doing)」が入る。

《訳》「君なんか息子のことをそんなふうには言わせてはおかないぞ」

④ get も「C」に「現在分詞(doing)」をとることがあるが、違いは「to do[原形]～」の場合は、「努力して～させる」というニュアンスになる。get+O+doing～ の場合、そのようなニュアンスはない。

(ex) I got the car starting. ④「努力して～させる」というニュアンスはない。

私は車を発進させた

## レクチャー9

### 意外な意味になる動詞。

以下に紹介する語は、意外な意味になる動詞として、頻出のものです。  
自動詞・他動詞の区別が色字になっているものは、その区別も重要ということ。  
しっかり整理して覚えてしまいましょう。

- (1) last 「(時間的に)続く、持続する」 ④ 自動詞(他動詞の用法もあるが少ない)  
「(人・健康・力などが)持ちこたえる、衰えない」  
「(物が)(ある時間)長持ちする、足りる、間に合う」

(ex) Our meeting lasted until three.

会合は3時まで続いた

How long will my grandmother last?

祖母はあとどのくらいもつだろう

How long will our food last?

我々の食物はどれくらいもつだろうか

- (2) long 「(…を)熱望する、(…に)あこがれる」 ☞ 自動詞、他動詞両方あり。  
☞ 「(Aが欲しくて)長く感じる → 今か今かと待ちわびる → 切望する」となった。  
long for A で「Aを切望する」「Aに憧れる」という語法もある。

(ex) We long for peace.

私たちは平和を熱望している

He longed to meet his girlfriend.

彼はガールフレンドにととても会いたかった

- (3) face 「(敵・困難等に)直面する、立ち向かう」 ☞ 他動詞 = confront  
「~に面している」「~に顔を向ける」 ☞ 自動詞・他動詞

(ex) They faced difficulties.

彼らは困難に敢然と立ち向かった

He is faced with a difficult choice.

彼は困難な選択に直面している

☞ be faced with A で「Aに直面している」。be confronted with A で言い換えられる。

The house faces north[on the road].

その家は北に [道路に] 面している

- (4) pay 「割に合う」 ☞ 自動詞

(ex) Honesty sometimes doesn't pay.

正直は時として割に合わない

☞ もちろん pay には pay for A で「A(品物)の支払いをする」、pay A for B で「B(品物)に対してA(金額)を支払う」という語法もある。

(ex) I paid 200 dollars for the dress.

私はそのドレスに200ドル払った

I have not paid for the book.

まだその本の支払いをしていない

- (5) work

- ① 「[機械・器官などが]動く、作動する、機能する」 ☞ 自動詞

(ex) This clock works by electricity.

この時計は電気で動く

- ② 「[計画・方法などが]うまくいく」

(ex) Your plan will work well.  
君の計画はうまくいくでしょう

③ 「薬・力などが効く、効果がある」

(ex) This medicine works like magic.  
この薬は不思議なほどよく効く

(6) share 「～を一緒に使う」  他動詞

(ex) I shared his taxi as far as my office.  
会社まで彼の乗ったタクシーに便乗させてもらった

 他に share には「(情報などを)伝える、共有する」という意味もある。


(ex) I have an interesting piece of news to share with you.  
あなたに伝えたいおもしろいニュースがある

(7) matter 「重要だ」  自動詞

(ex) It doesn't matter whether she will come or not.  
彼女が来るかどうかは重要ではない

 もちろん matter には、名詞として「問題、事柄」「物質」という意味もある。


(ex) I have several important matters to talk about to you.  
あなたと話すべきいくつかの重要な問題がある  
Matter and energy compose the universe.  
物質とエネルギーが宇宙を構成する

(8) meet O(必要・要求) 「Oを満たす、Oに応える」  他動詞

(ex) I had to meet their demands.  
私は彼らの要求に応じなければならなかった

 同じ意味の動詞としては satisfy などがある。


(ex) We couldn't satisfy the needs of customers.  
我々は顧客の要求を満たすことができなかった

 ちなみに meet には「～を出迎える」という意味もある。

(ex) I'm going to the station to meet an old friend.  
古い友人を出迎えに駅へ行くところです

逆に「～を見送る」は see ~ off。こちらも重要。

(ex) I have just been to the airport to see my friend off.  
友人を空港で見送って帰ってきたところです

(9) run O(店・会社など)「Oを経営する」  他動詞

(ex) He runs a hotel in New York.  
彼はニューヨークでホテルを経営している

📌 run は、上記以外に run を用いたイディオムが超頻出!

- ① run for A 「Aに立候補する」
- ② run out of A 「Aが切れる、使い果たす」  
run short of A 「Aが不足する」
- ③ run a risk 「危険を冒す」  
run the risk of A/doing~ 「Aの/~するという危険を冒す」
- ④ run (away) 「逃げる」
- ⑤ run after A 「Aを追いかける」
- ⑥ run into A 「Aに遭遇する、出くわす」  
=run across A  
=come across A  
=encounter A  
=meet A by chance
- ⑦ run over A(人など) 「(車が)Aをはねる、ひく」

(10) sell 「(ある価格で)売られている、売れ行きが良い[悪い]」  自動詞

(ex) His new book is selling well[badly] .  
彼の新しい本は売れ行きがいい[悪い]

📌 sell のように能動態でも受身的な意味を表す動詞として、cut 「切れる」、handle 「扱われる」などがある。

(ex) This knife cuts well.  
このナイフはよく切れる  
The car handles poorly.  
その車は運転しにくい

(11) become O(人) 「Oにふさわしい、似合う」 ☞ 他動詞。Sには「服・言動」がくる。

(ex) This hat becomes you.

この帽子はよくお似合いになりますよ

☞ この意味の become は、否定文などで用いられることが多く、suit で言い換えられる。

それから become of が what などとセットで「~はどうなるか」という意味になることもある。

(ex) What has become of the notebook I put here a few minutes ago?

ちょっと前にここに置いたノートはどうなったんだろう

(12) miss O(人) 「O(人)がいないのを寂しく思う」 ☞ 他動詞

(ex) I miss my son terribly now that he is abroad.

息子が外国に行ってしまいひどく寂しい

☞ miss の『核』のイメージは「~をとらえ損なう」。

(13) cover O(範囲・問題など) 「Oを扱う、カバーする、占める、に及ぶ」 ☞ 他動詞

(ex) This dictionary covers all common words.

この辞書は日常語はすべて採録してある

Her diary covers two years.

彼女の日記は2年に及んでいる

☞ cover には他に「(事件などを)報道する、取材する」「(金額が)~の支払いに十分である、(損失・費用などを)まかなう、負担する」という意味もある。

(ex) The newspaper went to cover the murder case.

その新聞記者は殺人事件を取材に行った

My salary barely covers my expenses.

私の給料は支出をまかなうのがやっとだ

また名詞の cover には「(本の)表紙」という意味もある。

(14) fail O(人) 「(いざというときに)Oの役に立たない、失望させる」 ☞ 他動詞  
「Oを見捨てる」

☞ fail の語法として fail in A で「Aに失敗する」は有名。

ちなみに「Aに成功する」は、succeed in A。

それから succeed には「(~を)継承する、引き継ぐ」という意味もある。

(ex) After the king's death, the prince succeeded to the throne.

王の死後、王子が王位を継承した

His brother will succeed to the family business.

彼の弟が家業を継ぐだろう

「成功する」という succeed の名詞形は success、「継承する、引き継ぐ」という succeed の名詞形は succession。

(ex) His courage failed him.

(いよいよという時に)彼は勇気が出なかった

Words failed me.

私は言葉に詰まった

Her sight failed her.

彼女は視力を失った

④他に fail には、fail to do[原形]~で「~しない、~できない」という語法もある。更に never fail to do[原形]~で「必ず~する」となる。

(ex) He failed to keep his promise.

彼は約束を守らなかった

He failed to answer my letter.

彼は私の手紙に返事をくれなかった

It never fails to rain when we want to play golf.

ゴルフをしようと思うと必ず雨が降る

(15) survive O(人) 「Oより長生きする」 ④他動詞

(ex) She survived her husband by ten years.

彼女は夫よりも10年長生きした

④もちろん survive には「生き残る[延びる]、存続する」(これは自動詞)。

「~を生き延びる」(これは他動詞)のような意味もある。

(ex) The custom has survived into the 21st century.

その習慣は21世紀まで続いている

(16) make C(人・物) 「Cになる」 = become C(人・物)

make O<sub>1</sub> O<sub>2</sub> 「O<sub>1</sub>にとって(O) O<sub>2</sub>になる」

(ex) The two will make an ideal couple.

2人は理想的な夫婦になるだろう



This essay makes pleasant reading.

この随筆は楽しい読み物になる[読んで楽しい]

Betty will make Jim a good wife.

=Betty will make a good wife for Jim.

ベティーはジムのいい奥さんになるだろう

(17) enjoy 「～に恵まれている」「～を享受している」 他動詞。

④ enjoy の『核』のイメージは「あることを楽しんでする[手にしている・持っている]」。このように enjoy には「楽しみ」の概念が含まれる。

「良いものを持っている」から転じて「～に恵まれている」「～を享受している」という意味になる。

(ex) She enjoys a good income.

彼女には十分な収入がある

The area enjoys a good climate.

その地域は良い気候に恵まれている

He enjoyed great success as an architect.

彼は建築家として大成功を収めた

(18) follow [S follow O で] 「SがOの次に来る[起る]」 他動詞。

この意味の follow は「S=後[次]」「O=先[前]」の意味関係になるのが特徴です。

「S=後[次]」

「O=先[前]」

S	follow	O
(後[次])		(先[前])

(ex) Spring follows winter.

冬の後には春がやってくる

=After winter spring follows.

④つまり「winter=先[前]」「spring=後[次]」。

Mr. Obama followed Bush as president.

オバマ氏がブッシュ大統領の後を継いだ

④つまり「Bush=先[前]」「Mr. Obama=後[次]」。

この follow の同意語が(他動詞の) succeed です。つまり S succeed O となる

場合、follow と同じように「S = 後[次]」「O = 先[前]」の意味関係になります。

S	succeed	O
(後[次])		(先[前])

(ex) The prince succeeded his father as king.

王子は父の後を継いで国王になった

☞ 「the prince = 後[次]」「his father = 先[前]」。

The storm was succeeded by a great calm.

嵐の後には全くのなぎがやって来た

☞ 受動態なので逆になり、「the storm = 先[前]」「a great calm = 後[次]」。

(19) book 「～を予約する」 ☞ 他動詞。

(ex) He booked a seat on the train.

彼はその列車の席を予約した

☞ reserve や make a reservation for の方が一般的な表現。

They booked me a room at the hotel.

彼らは私にホテルの部屋をとってくれた

☞ book O<sub>1</sub> O<sub>2</sub> で「O<sub>1</sub>にO<sub>2</sub>を予約してやる」。

ちなみに bookkeeping で「簿記」。

(20) handle 「扱う、操縦する、処理する、論じる」 ☞ 他動詞。

☞ 「～を手でつかむ → 扱う、操縦する、処理する、論じる」となる。

(ex) The machine I bought the other day is difficult to handle.

先日購入したこの機械は扱いにくい

They handled us carefully.

彼らは我々を丁寧に扱った

It is difficult to handle the matter.

その問題を処理するのは難しい

(21) picture 「(人・物・事を～だと)心に描く、想像する」 ☞ 他動詞。

☞ imagine よりも「ありありと目に浮べる」といったニュアンスになる。

(ex) I pictured him winning the game.

私は彼がその試合に勝つところを想像した

④ picture は名詞として以下の意味も重要。

① 「(テレビ・映画の)画面、画質」

(ex) You'll get a clear picture with this antenna on the roof.

このアンテナを屋根につけると画面がはっきりするでしょう

② 「イメージ[=image]、姿、理解、合点」

(ex) He gave me a vivid picture of the event.

彼はその出来事を生き生きと描写してくれた

I get the picture.

よくわかったよ

③ [the picture] 「状況、事態、全体像」 =the situation

(ex) In the twentieth century, computers have changed the industrial picture.

21世紀、コンピュータが産業の様相[状況]を変えた

(22) rule 「(～を)支配する、統治する」 他動詞。

④ 「国・人などを規定する → 人・国などを支配する」。

「(感情等を)抑制する、抑える」

④ 「意思によって感情等を規定する → 感情等を抑制する」。

(ex) Germanic peoples ruled most of Europe.

ゲルマン民族はヨーロッパの大半を支配した

This country was once ruled by the French.

この国はかつてフランス人に支配されていた

She often cannot rule her passions[appetite].

彼女は感情 [食欲] を抑えられないことがよくある

(23) store 「～を蓄える[貯蔵・保管する、しまっておく]」 他動詞。

④ store の『核』のイメージは「必要なものを供給する」。

(ex) They stored their ship with provisions.

彼らは船に食料を積み込んだ

The farmers stored vegetables for winter use.

農家の人達は冬に備えて野菜を蓄えた

④ 「(自身・場所に)供給する → 蓄える、保存[管]する」へと転じる。

(24) challenge 「(陳述・資格等に対してその妥当性を)疑う、」 他動詞。

問題にする、異議を唱える」

④ 「おかしいじゃないか」と挑みかかるイメージ。(動詞の)question や doubt

で言い換えられる。

(ex) Nobody in the company challenged the boss's prospects for the future.

社内の誰も社長の将来見通しに異議を唱えるものはいなかった

The police challenged the truth of her story.

警察は彼女の話が本当かどうか疑った

(25) question 「～に異議を唱える」 他動詞。 = doubt, challenge

(ex) Some people question the truth of his remarks.

彼の言葉の真偽を疑う人がいる

Some people question whether his remarks are true.

彼の言葉が真実かどうか疑う人がいる

(26) state 「(明確に意見等を)述べる、言い表す」 他動詞。

state は動詞の場合、元々は「(自らの立場[状態]を)はっきりと示す」。

(ex) Please state your name and address.

あなたの名前と住所を述べて下さい

The prime minister stated that he decided to resign.

総理は辞意を決めたと述べた

(27) attend to A 自動詞。

①[A=人] 「Aの世話をする、看護する」

attend A となることもある。

(ex) Who is attending to this patient?

誰がこの患者さんの世話をしているのですか

②[A=客など] 「Aに仕える、給仕する」

(ex) Are you being attended to, sir?

誰かご用を承っておりますでしょうか

店員が客に話しかける際に使う。

He was attended to[on] by an able assistant.

彼には有能な助手が付いていた

③[A=話] 「Aを注意して聞く」

(ex) Let's attend to his speech.

彼の話に注意して聞こう

Are you really attending to her speech?

本当に彼女の話に聞いているのですか

④[A=仕事・勉強]「Aに精を出す」

[A=用件]「Aを処理する」=handle

(ex) You should attend to your studies.

勉強に精を出しなさい

I'll attend to that.

ご希望に添うようにします

(28) coin 「(硬貨を)鑄造する」 他動詞。  
「(新語・うそを)作る、作り出す」

(ex) The mint used to coin gold into dollars.

その造幣局は金でドル貨幣を造っていた

The writer coined an interesting word.

その作家は興味深い新語を作った

a coined word 新造語

(29) date [date from A(日付・時代・年代)で]「Aの日付がある」「Aに始まる」 自動詞。  
[date back to A(時代・年代)で]「Aに(起源が)さかのぼる」

(ex) The document dates from July 1.

その文書は7月1日の日付になっている

This university dates from the late 13th century.

この大学は13世紀後期に始まる

The castle in our city dates back to the Age of Civil War.

私たちの町の城(の建設)は、戦国時代までさかのぼる

(30) fashion 「～を作る」 他動詞。

會語源は factory や fact 等と同じ。factory は「作る所→工場」、fact は「作られた(行われた)こと→事実」となる。

(ex) He fashioned a box from a piece of wood.

彼は木片で箱を作った

The experience of war fashioned the young man into a pacifist.

戦争体験がその若者を平和主義者にした

會上例は比喩的に「～を形成する」という意味で使われている。

ちなみに、名詞の fashion には、「方法、仕方」という、way と同じ意味がある。

(ex) in this fashion

こんなふうに

He paints in his own fashion.

彼は自己流で絵をかく

(31) fine 「罰金を科す」 他動詞。

(ex) They fined her £5 for speeding.

彼女はスピード違反で5ポンドの罰金を科せられた

會 fine A(人) B(金額) (for+理由) で「Aに(～の理由で)Bの罰金を科す」。

He was fined for speeding.

彼はスピード違反で罰金を科せられた

(32) maintain 「(人が～を[～だと])主張する、断言する」 他動詞。

會「意見・考えを心に保つ→その結果それを口にする→主張する」。

Oには名詞以外に that節もくる。また maintain O to be C で「OはCだと主張する」といった構文もある。

(ex) He maintains her innocence.

彼は彼女の無罪を主張している

=He maintains her to be innocent.

=He maintains that she is innocent.

(33) mark 「(～を)特色付ける、(～の特徴を)はっきりと示す、目立たせる」

「(～を)記念する」

他動詞。

「(～を)祝う」

會「目立つように印をつける→特色付ける、目立たせる」。

「特別にある一日を際立たせる→祝う、記念する」。

(ex) Today's ceremony marks the 100th anniversary of our school.

今日の式典は我が校の100周年を記念するものです

The year was marked by disastrous events.

その年は悲惨な事件によって特徴付けられた→悲惨な事件が目立った

會 marked は形容詞として、「著しい」「明らかな」という意味で用いられる。remarkable で言い換えられる。

(ex) a marked difference[change]

著しい差異[変化]

(34) mind 他動詞。

- ①[通例命令文で] 「(人・物・事に)注意を払う、用心する」  
「(人の話・忠告等を)注意して聞く、に従う」

(ex) Mind your step !

足元に気をつけて！

=Watch your step!

Mind you (that) you read questions twice.

いいかい、問いは必ず2度読むんだよ

☞ Mind you は「いいかい。よく聞きなさいよ」という意味。

Mind your parents' advice[words].

=Mind what your parents tell you.

ご両親の言うことをよく聞きなさい

- ②[通例否定・疑問文で] 「(~を)いやだと思っている、気にする」  
「(人が~するのを)いやだと思う」

(ex) I don't mind your[you] smoking.

あなたがタバコを吸ってもいっこうにかまいません

=I don't mind if you smoke.

Do[Would] you mind if I smoke?

タバコを吸ってもいいですか

=Do[Would] you mind my smoking?

I don't mind about that.

そのことは気にしません

☞ Do you mind? で、いらだちを示して「やめてくれませんか」という意味になることもある。

(35) nurse 「(~を)看護[世話]する、看病する」 他動詞。  
「(人・物・才能などを)大事に育てる」  
「(~を)大事に使う」

(ex) The mother nursed her sick son at home.

その母親は自宅で病気の息子を看護した

Nurse your cold.

風邪をお大事に

She is nursing a baby.

彼女は今赤ん坊にお乳をやっています

He nurses a young tree.

彼は苗木を育てている



Nurse the fire.

暖炉の火が消えないように注意しなさい

(36) part [自動詞] 「別れる、割れる」

[他動詞] 「分ける、切断する」

會 「(全体から分かれて[分けて])部分になる[する]」ということ。

(ex) The police parted the crowd.

警官は群衆をかき分けた

They parted at the gate.

彼らは門のところで別れた

I parted with my old bicycle.

私は古い自転車を手放した

會 part with A(物) で「Aを手放す」。

I parted from my friend in anger. 私は友達とけんか別れをした

會 part from A(人) で「Aと別れる」。

(37) rate 「(～を…だと)評価する、見積もる」 他動詞。

「(～に)値する、(～だけの)価値がある」

[rate C(形)] 「Cと評価される、みなされる」

(ex) I don't rate the film (very highly).

私はその映画を(あまり高く)評価しない

I think he rates a promotion.

彼は昇進する価値があると思う

His performance rated very high.

彼の演技は大変高く評価された

(38) spoil 「(人を)甘やかす、(人を甘やかして)性格を駄目にする」 他動詞。

(ex) Spare the rod and spoil the child.

むちを惜しめば子供をだめにする

會 「かわいい子には旅をさせよ」という意味のことわざ。

spoil の活用は spoil - spoilt[spoiled] - spoilt[spoiled] 。

(39) trick 「(～を)だます、ごまかす」 他動詞。

(ex) He tricked her into marrying him.

彼は彼女をだまして自分と結婚させた

They tricked him out of his money.

彼らは彼をだまして金を奪った

(40) reason 「(論理的に)考える、論じる」「推理(論)する」「判断する」☞他動詞。

[reason A(人) into[out of] doing～]「Aに(道)理を説いて

～させる[させない]」

(ex) Man alone has the ability to reason.

人間だけに思考する能力がある

They reasoned that he was guilty.

彼らは彼が有罪であると判断した

I reasoned her out of such stupid behavior.

私は彼女を説得してそんなばかなふるまいをやめさせた

(41) resort [resort to A(手段)] 「Aに訴える」 ☞自動詞。

(ex) They resorted to arms[violence, a strike] .

彼らは武力[暴力・ストライキ]に訴えた

When she feels lonely, she resorts to drink.

さびしくなると彼女は酒を飲む

(42) sense 「～を感じる、～に気づく」 ☞他動詞。

(ex) I sensed (that) something was wrong as soon as I saw her face.

彼女の顔を見た瞬間、なにかおかしいと感じた

I sensed that something had happened to him.

彼に何かあったと私は感じた

(43) spring 「突然飛び出す[出る]」「跳ねる」 ☞自動詞・他動詞。

☞ spring の活用は spring - sprang - sprung 。

(ex) He sprang out of bed.

彼はベッドから跳び出た

The door sprang open.

ドアがぱっと開いた

A new town has sprung up in the desert.

砂漠の中に新しい町が出現した

(44) treat 「物を(化学薬品等を用いて)処理する」 他動詞。  
「人をもてなす、歓迎する」  
「人に～をおごってやる、ごちそうする」

(ex) They treated the metal plate with acid.

彼らはその金属板を酸で処理した

He treated me to a drink.

彼は私に1杯おごってくれた

I'll treat you to a movie.

君に映画をおごってあげるよ

I'll treat today.

今日は私がおごるよ

④ treat は名詞として以下のような意味になることもある。

- ① 「(思いがけない)楽しみ、喜び」  
「(めったにない)ごちそう、もてなし」

(ex) Her singing was a wonderful treat.

彼女の歌はとても楽しめた

That will be a great treat for the students.

それは生徒達にとって大きな楽しみですよう

- ② 「おごり、おごる番」

(ex) It is my treat now.

今回は私がおごります

(45) weigh 「～をよく調べて(比較)検討する、考える」 自動詞・他動詞。

(ex) You had better weigh your words before speaking.

しゃべる前に使う言葉をよく考えた方がいい

They weighed one plan with[against] another one.

彼らは2つの計画を比較検討してみた

④ weigh A with[against] B で「AをBと比較する」。=compare A with B

④ weigh には他に「～の重さを計る」「C(重量)の重さがある」という(自動詞の)語法がある。

(ex) She weighed the meat on the scales.

彼女ははかりで肉の重さを量った

I weigh 60 kilograms.

私は体重は60kgです

(46) address 「〇(人)に話しかける、話をする」 他動詞。  
「〇(人・聴衆)に(正式に)話をする、演説する、講演する」

address の『核』のイメージは「～に(直接)言葉[心など]を向ける」。

(ex) The man sitting there addressed me suddenly.  
そこに座っていた男性が突然私に話しかけてきた  
He addressed the nation[an audience].  
彼は国民[聴衆]に演説した  
=He made an address to the nation[an audience].

address には「〇(物・事)に焦点を当てる、的をしぼる」「〇(課題など)に取り  
組む」「〇(問題など)を扱う、処理する」という意味になります。

(ex) She addressed herself to the task.  
彼女はその仕事に取りかかった  
The article addresses the issue of falling birthrate.  
その記事は少子化の問題を扱っている

(47) appoint 「～を任命する、指名する」 他動詞。  
a は「～の方を」という接頭辞。point は「指さす」という意味。

(ex) The president appointed a new manager.  
社長は新しい部長を任命した  
He appointed Mr. Norman as[to be] chairman of the committee.  
彼はノーマン氏を委員長に任命した

(48) chance [chance to do[願]～で] 「偶然(たまたま)～する」 自動詞。  
[It chances that S+V～で] 「偶然～となる(が起こる)」

(ex) My parents chanced to be in the theater.  
両親が偶然その劇場にいた  
It chanced that I met her at the station.  
偶然駅で彼女と会った

(49) count 「考慮に値する」「価値がある」「重要である」 自動詞。  
[count on A (for B) で] 「(Bのことで)Aに頼る」

(ex) Every vote counts.  
1票でも大切だ  
What counts is your efforts and patience.

大切なのは努力と忍耐だ

Seconds count.

1秒を争う

You can count on me.

僕を頼りにしていいよ

Don't count on others for help.

他人の援助を当てにしてはいけない

④ count には、他動詞として count O [as/ to be] C で「OをCとみなす」という語法もある。

(ex) She counted herself lucky to be there.

そこにいて運がよかったと彼女は思った

I counted him as the leader of the group.

彼がそのグループのリーダーだと思った

(50) exercise 「力を発揮する、行使する、及ぼす」 ④他動詞。

(ex) I exercised will power and stopped smoking.

意志の力でたばこをやめた

You should exercise your imagination.

君は想像力を発揮するべきだ

They exercised their rights as a citizen.

彼らは市民としての権利を行使した

(51) ship 「(商品・物資などを船・列車・トラック・飛行機などで送る[運ぶ])」  
「(積み荷を)船積みする」 ④他動詞。

(ex) They shipped goods from Kobe to Singapore.

彼らは貨物をシンガポール向けに神戸から船積みした

100,000 computers were shipped by plane.

コンピュータが10万台空輸された

(52) stand 「～に耐える、我慢する」 ④他動詞。

「(試練・困難などに)立ち向かう」

④ stand の核(core)のイメージは「ある場所に(存在して)いる・ある」。

(ex) I cannot stand hot weather in Japna.

私には日本の暑さは耐えられない

Can you stand the pain?

痛みをこらえられますか

She couldn't stand being[to be] kept waiting.

彼女は待たされるのは我慢できなかった

They stood the enemy's attack bravely.

彼らは敵の攻撃に勇敢に立ち向かった

ちなみに stand には、他にも以下のような(意外な)語法がある。

①[stand C(形・分)] 「Cの状態で見ている」 自動詞。

(ex) She stood surrounded by her grandchildren.

彼女は孫たちに囲まれて立っていた

Ⓢ 「Cの状態で見ている」は sit C(形・分)。

② 「～の状態である」 自動詞。

(ex) The door stood open.

戸は開いていた

We stand ready to help.

我々はいつでも援助できる用意がある

③[stand A(人) B(動)] 「AにBをおごってやる」 他動詞。

Ⓢ stand B(動) [for A(人)] とも言う。

(ex) I'll stand you a lunch.

ランチは私がもちましよう

## レクチャー10

「動詞＋名詞」の(決まり文句的)頻出表現。

- |               |                              |
|---------------|------------------------------|
| 1. 「知識を身につける」 | acquire[get, gain] knowledge |
| 2. 「玄関の応対に出る」 | answer the door              |
| 3. 「実を結ぶ」     | bear fruit                   |
| 4. 「お湯を沸かす」   | boil (some) water            |
| 5. 「火がつく」     | catch[take] fire             |

6. 「風邪をひく」	catch (a) cold
cf; 「風邪をひいている」	have a cold
7. 「始発列車に間に合う」	catch the first train
cf; 「最終列車に乗り遅れる」	miss the last train
8. 「足を組む」	cross one's legs
cf; 「腕を組む」	fold one's arms
9. 「出席をとる」	call the roll
10. 「試験でカンニングする」	cheat in[on] the examination
11. 「せきばらいをする」	clear one's throat
12. 「食卓を片付ける」	clear the table
13. 「罪を犯す」	commit a crime
14. 「自殺する」	commit suicide
15. 「(ある金額が)出費をまかなう」	cover expenses
16. 「見物する」	do[see] the sights
17. 「あいさつをかわす」	exchange greetings
18. 「凧を上げる」	fly a kite
19. 「～の忠告に従う」	follow[take] one's advice
20. 「運動をする」	get[take] exercise
21. 「パーティーを開く」	give[have/ hold/ throw] a party
22. 「講義(講演)をする」	give[deliver/ do] a lecture
23. 「頭が痛い」	have a headache
24. 「のどが痛い」	have a sore throat
25. 「息を殺す」	hold one's breath
cf; 「息が切れる」	be out of breath
26. 「黙る」	hold one's tongue
27. 「日記をつける」	keep a diary
28. 「暇をつぶす」	kill time
29. 「卵を産む」	lay an egg
30. 「かっとなる」 (=get angry)	lose one's temper
31. 「(～の)予約をする」	make a reservation (for～)
cf; 「(～の)予約を取り消す」	cancel a reservation (for～)
32. 「(～のために)場所をあける」	make room (for～)
33. 「ミスをする」	make mistakes[a mistake]
34. 「お茶[コーヒー]を入れる」	make tea[coffee]
35. 「お金を稼ぐ」	make[earn] money
36. 「生計をたてる」	make[earn] a living
37. 「火を起こす」	make[build] a fire

38. 「演説をする」	make[deliver] a speech
39. 「顔をしかめる」	make[pull] a face
40. 「決心する」	make a decision
41. 「重要である」	make a difference
42. 「意味をなす／筋が通る」	make sense
43. 「進歩する」	make progress
44. 「努力する」	make efforts[an effort]
45. 「要求[必要]を満たす」	meet a demand[need]
46. 「試験にうかる[落ちる]」	pass[fail] an examination
47. 「医者[弁護士]を開業する」	practice medicine[law]
48. 「ホテルを経営する」	run a hotel
49. 「危険を冒す」	run[take] a risk
40. 「貯金する」	save money
51. 「医者にかかる」	see[consult] a doctor
52. 「辞書を引く」	see[consult] a dictionary
53. 「食卓の準備をする」	set the table
54. 「(Aと)握手する」	shake hands (with A)
55. 「部屋を共有する」	share a room
56. 「タクシーを相乗りする」	share a taxi
57. 「涙を流す」	shed tears
58. 「肩をすくめる」	shrug one's shoulders
59. 「子供を甘やかしてだめににする」	spoil[indulge] children
60. 「試験を受ける」	take[sit for] an examination
61. 「薬を飲む」	take medicine
	☞ drink[have, eat] medicine とは言わない。
62. 「一休みする」	take a rest
63. 「避難する」	take shelter
64. 「交替で～する」	take turns doing～
65. 「措置を講じる」	take measures[steps]
66. 「昼寝する」	take[have] a nap
67. 「時間をかける」	take one's time
68. 「骨を折る、尽力する」	take pains
69. 「電話[トイレ]を借りる」	use a telephone[bathroom]
	☞ borrow a telephone[bathroom] とは言わない。
70. 「足元に気をつける」	watch one's step



後ろの形で意味が見えてくる動詞のパターン。

英語は、「形[構造]が意味を規定する」言語です。  
特に動詞の場合、自身の後ろにどんな形(構造)を取っているかで、  
意味が類推できてしまうことが多いのです。ですから、ここで紹介するルールは、皆さんの語彙力増強にも大いに役立つものとなるでしょう。

(1) 「動詞 + A with B」型。

ある動詞の後に「A with B」という形が続く場合、その動詞の意味は2つに分類することができます。それは、

- ① 「AにBを与える」
- ② 「AをBと結びつける」

の2つです。以下にその例をあげてみましょう。

① 「AにBを与える」型 A ⇄ B

provide A with B 「AにBを与える」

⚠️特に provide[supply] は、AとBがひっくり返ると provide B for A と、前置詞が for になり、これもよく混わる。

(ex) We provided them with food.

私たちは彼らに食料を与えた

= We provided food for them.

- furnish A with B 「AにBを与える」
- supply A with B 「AにBを与える」
- entrust A with B 「AにBをゆだねる」
- feed A with B 「AにB(食物)を与える」
- impress A with B 「AにBを印象づける」
- present A with B 「AにBを贈る」
- trust A with B 「AにBを預ける」

② 「AをBと結びつける」型 A ⇄ B

- combine A with B 「AをBと結び付ける」
- associate A with B 「AをBと結びつける、関連させる」
- mix A with B 「AをBと混ぜる」
- identify A with B 「AをBと同一視する」

concern A with B 「AをBと関係させる」

もちろん下の英文のように、形は「動詞 + A with B」型でも、上のルールに当てはまらないようなものもあるので注意は必要です。

(ex) He struck a ball with a bat. ☞この with は、単に「～で(もって)」という「手段」を表しているだけ。

彼はバットでボールを打った

I visited the town with my wife. ☞この with は、単に「～と一緒に」という「同伴」を表しているだけ。

私は妻とその町を訪れた

## (2) 「動詞 + A for B」型。

ある動詞の後に「A for B」という形が続く場合、その動詞の意味は2つに分類することができます。それは、

①[A for B のforが「理由のfor」だった場合] → 「賞罰」を表す動詞がくることが多い

②[A for B のforが「イコールのfor」だった場合] → 「交換する」「みなす」型が多い

の2つです。以下にその例をあげてみましょう。

### ①「Bの理由でAを誉める、叱る、非難する、罰する等」、つまり「賞罰」型

blame A for B	「Bの理由でAを非難する」
condemn A for B	「Bの理由でAを非難する」
censure A for B	「Bの理由でAを非難する」
criticize A for B	「Bの理由でAを批判する」
punish A for B	「Bの理由でAを罰する」
praise A for B	「Bの理由でAを誉める」
admire A for B	「Bの理由でAを賞賛する」
thank A for B	「Bの理由でAに感謝する」
scold A for B	「Bの理由でAを叱る」

### ②「AをBと交換する／みなす」、つまり「A=B」型

exchange A for B	「AをBと交換する」
substitute A for B	「AをBの代わりに用いる」
buy A for B	「A(物)をB(金額)で買う」
sell A for B	「A(物)をB(金額)で売る」
pay A for B	「A(金額)をB(物)に支払う」
take A for B	「AをBとみなす」
mistake A for B	「AをBと間違える」

### (3) 「動詞 + A of B」型。

ある動詞の後に「A of B」という形がつづく場合、その動詞の意味は3つに分類することができます。それは、

- ① 「A(人)からBを取り去る[取り除く]
- ② 「B(人)にAを求める」
- ③ 「A(人)にB(情報・考え・記憶・警告等)を与える」

の3つです。以下にその例をあげてみましょう。

- ① 「A(人)からBを取り去る[取り除く]」  $A \Leftarrow B$ 

rob A of B	「AからB(金品)を奪う」
deprive A of B	「AからB(物・地位・能力など)を奪う」
clear A of B	「AからB(邪魔なもの)を取り除く」
cure A of B	「AからB(病気)を取り除く[治療する]」
empty A of B	「AからBを出す[空にする]」
relieve A of B	「AからB(不安など)を取り除く」
rid A of B	「AからB(障害物・負担・苦痛など)を取り除く」
strip A of B	「AからB(物・財産・権利など)を奪う、取り除く」
- ② 「B(人)にAを求める」型  $A \rightarrow B$ 

ask A of B	「BにAを尋ねる」
beg A of B	「BにAを懇願する」
demand A of B	「BにAを要求する」
expect A of B	「BにAを期待する」
require A of B	「BにAを要求する」
- ③ 「A(人)にB(情報・考え・記憶・警告等)を与える」型  $A \rightarrow B$ 

inform A of B	「AにB(情報)を与える」
convince A of B	「AにB(考え)を確信させる」
persuade A of B	「AにB(考え)を納得させる[説得する]」
remind A of B	「AにB(記憶)を思い出させる」
warn A of B	「AにB(警告)を与える」

### (4) 「動詞 + A from B」型。

ある動詞の後に「A from B」という形がつづく場合、「Aが[を]Bから離れる[離す・別れる]方向に仕向ける」がその意味の基本です。具体的には以下の3つ

に分類することができます。それは、

①[動詞 + A + from doing~]「Aが~しない[できない]ようにする」

會これは、「Sが原因となって結果としてOは~しない[できない]」と訳してもいい。

②「AとBを区別する」

③「BからAを得る」

の3つです。以下にその例をあげてみましょう。

①「Aが~しない[できない]ようにする」型 A ⇔ B

prevent A from doing~ 「Aが~することを妨げる」

keep A from doing~ 「Aが~することを妨げる」

stop A from doing~ 「Aが~することを妨げる」

hinder A from doing~ 「Aが~することを妨げる」

prohibit A from doing~ 「Aが~することを禁止する」

discourage A from doing~ 「Aが~することを思い止まらせる」

②「AとBを区別する」型 A ⇔ B

distinguish A from B 「AとBを区別する」

tell A from B 「AとBを区別する」

know A from B 「AとBを区別する」

discern A from B 「AとBを区別する」

③「BからAを得る」型 A ← B

derive A from B

(5)「動詞 + A on B」型。

ある動詞の後に「A on B」という形がつづく場合、その動詞の意味は以下の通りです。

「AをBに与える[Bの上に置く]」 A ⇨ B

以下にその例をあげてみましょう。

confer A on B 「AをBに与える」

place A on B 「AをBに与える」

impose A on B 「AをBに課す」

blame A on B 「AをBのせいにする」

inflict A on B 「AをBに押しつける」

(6) 「動詞 + A into B」型。

ある動詞の後に「A into B」という形がつづく場合、その動詞の意味は2つに分類することができます。それは、

①「AをBに変える」

②「AをBの中に入れる」

の2つです。以下にその例をあげてみましょう。

①「AをBに変える」型 A→B

change A into B	「AをBに変える」
turn A into B	「AをBに変える」
convert A into B	「AをBに変える」
divide A into B	「AをBに分割する」
put A into B	「AをBに翻訳する」
translate A into B	「AをBに翻訳する」
transform A into B	「AをBに変化させる」

②「AをBの中に入れる」型 A→B

put A into B	「AをBの中に入れる」
infuse A into B	「AをBに吹き込む、注入する」
talk[persuade] A into doing～	「Aを説得して～させる」
⇔talk[persuade] A out of doing～	「Aを説得して～させない」

(7) 「動詞 + A to B」型。

ある動詞の後の「A to B」は、「A→B(つまり「AをBに」)」と考えて下さい。そして「A to B」を後ろにとる動詞の意味は、以下の3つに分類することができます。

①「AをBに与える[伝える、加える]」「AはBのせいだと考える」

②「AをBに連れてゆく[くる]、もたらす」「AをBに合わせる」

③「AをB(状態・性質)に変える[にする]」

このうち「与える」型が一番多く、その次が「連れてゆく」型です。以下にその例をあげてみましょう。

① 「AをBに与える」 A ⇨ B

「A(責任・過失など)をBのせいにする[せいだと考える]」

give A to B 「AをBに与える」

add A to B 「AをBに加える」

do A to B 「A(益・害)をB(人)に与える」

attach A to B 「AをBに付け加える、張り付ける」

attribute A to B 「AをBのせいにする」

ascribe A to B 「AをBのせいにする」

② 「AをBに連れていく(くる)、もたらす」 A ⇨ B

take A to B 「AをBに連れていく」

bring A to B 「AをBに連れてくる」

③ 「Bの状態にする[変える]」 A ⇨ B

reduce A to B 「AをBに減らす」 「AをBに変える[まとめる]」

change A to B 「AをBに変える」

(8) 「動詞 + A as B」型。

ある動詞の後に「A as B」という形がつづき、その部分に「A=B」の関係が成り立つ場合、その動詞の意味は以下の通りです。

「『AはBだ(A=Bだ)』とみなす[思う]／言う」 A=B

◎「みなす[思う]」型が多い。

以下にその例をあげてみましょう。

regard A as B 「AはBだとみなす」 describe A as B 「AをBだと言う」

look on A as B 「AはBだとみなす」 speak of A as B 「AはBだと言う」

see[view] A as B 「AはBだとみなす」 define A as B 「AをBと定義する」

think of A as B 「AはBだ思う」

refer to A as B 「AをBと呼ぶ[言う]」

もちろんごくたまに「A=B」が成り立っても「みなす[思う]／言う」型にならないものもあります。それはたとえば以下のように主語が「物・事」の場合です。

(ex) Moderate exercise brings health as its reward[報酬].

適度な運動は健康をその報酬としてもたらしてくれる

以下は、字面的には「見なす」ではありませんが、「AをBとみなす」結果として「使う」「扱う」わけで、その応用形と言えるでしょう。

(ex) The boys used the stick as a bat.

少年たちはその棒をバットとして用いた

They treated me as a child.

彼らは私を子供として扱った

それから、S strike A as B(AにSがBという印象を与える)、S replace A as B(SはBとしてAに取って代わる)のように、「S=B」となる動詞も少数ですがあります。

(ex) It struck me as strange.

私はそれを変だと思った

Japan has replaced the US as the key foreign power in Southeast Asia.

東南アジアにおける重要な影響力をもつ外国として日本がアメリカに取って代わった

#### (9) 「動詞 + A off B」型。

ある動詞の後に「A off B」が続く場合、「AをBから離す[遠ざける]」となります。

(ex) Keep your dirty hands off that book.

汚い手でその本に触るな

## 特別講義

第一文型(S+V)の表す意味について。

### 1.一般によく言われる第一文型(S+V)の意味。

一般に第一文型の動詞の意味は以下の4つに分類できると言われています。

(1)「存在・状態(いる・ある)」… be, live, stay, remain, last, wait 等

(ex) I am in trouble.

私は困っている

I live in Tokyo.

私は東京に住んでいる

(2)「移動・発着(行く・来る・着く・発つ)」… come, go, arrive, get, start, leave 等

(ex) I went to Kyoto with my family.

私は家族と一緒に京都へ行きました

(3)「出現・発生(生じる・現れる)」… appear, happen, occur 等

(ex) A surprising thing occurred this morning.

驚くべきことが今朝起こった

(4)「その他」

(ex) She insisted on his going there.

彼女は彼がそこに行くよう言い張った

The business has been paying.

その事業はもうかっている

しかしこれでは(4)の「その他」のグループに入る動詞が多すぎて、実際にはこの意味の分類はあまり役に立ちませんね。



## 2. セットの前置詞・副詞をヒントにした第一文型の意味の類推法。

そこでより実用的な第一文型の意味の分類法を考えてみたいと思います。  
それが以下の2種類の分類の仕方です。

- (1) 「S+V+前置詞[副詞]」の構造から即文全体の意味を類推できるタイプ。
- (2) 「前置詞[副詞]のイメージ」から類推した方がてっとり早いタイプ。

(1) 「S+V+前置詞」の構造から即文全体の意味を類推できるタイプ。

### ① 「S+V from ~」型。

前置詞の from は、記号で言うなら「←」で表すことができます。

S V from ~  
←

ここから「S+V from ~」型は以下の3つの意味に分類することができます。

#### 1. 「Sは~から(もどって・やって)来る・移動する・遠ざかる」

☞この場合、「~」は「(動作などの)起点」を表す。

(ex) He came from the room.

彼は部屋から出て来た

☞from を out of で言い換えることもできるが、from は部屋を起点としてとらえているのに対し、out of は「(部屋の)中から外へ」の意を表す。

The teacher refrained from telling his students anything.

先生は生徒達に何も言わなかった

☞「生徒にいかなる言葉であれそれを言う(かける)ことから遠ざかった」ということ。実際 refrain from A で「Aを控える、やめる」という意味になる。

He rose from the chair.

彼はいすから立ち上がった

I still regret that we moved from the country.

私は田舎から転居したのを今でも後悔しています

He will return from his vacation next week.

彼は来週休暇から戻るでしょう

I withdrew from the drawing room.

私は客間から引き下がった

☞withdraw from A で「Aから引き下がる、撤退する」。

## 2. 「S = 結果」、 「～=原因」 の意味関係になる

S V from ～  
[結果] ← [原因]

この場合は「～が原因となって(結果として)Sが生じる」といった訳がうまくはまることが多いのです。そしてこの意味になる場合、Sは「物事」を表す名詞であることが多いと言えます。

(ex) Tooth decay often results from eating sweets.

甘いものを食べるとしばしば虫歯ができる

His illness came from eating too much.

彼の病気は食べ過ぎから起こった

His anger often derived from nothing

彼の怒りは理由のないことが多かった

④ derive from A で「Aに由来する」「Aから出ている」。derive from の場合、

「～から来る」型で訳せることもある。

(ex) The term derives from Greek.

その用語はギリシャ語に由来する

## 3. その他

• suffer from A 「Aに[で]苦しむ」

(ex) The people were suffering from want of food.

人々は食糧不足に悩まされていた

• benefit from A 「Aから利益を得る」

(ex) I've benefited from his advice.

彼の忠告には得るところがあった

### ② 「S+V into ～」型。

前置詞の into は、記号で言うなら「→」で表すことができます。

S V into ～  
→

ここから「S+V into ～」型は以下の2つの意味に分類することができます。

1. [ ~ = 場所(帰着点)・空間・時間・事業・活動 ] 「~の中へ[に]入る」  
「~にまで至る」

(ex) We went into the house.

私達はその家の中に入った

He is well into his forties.

彼は40歳をかなり越えている

The custom has survived into the twentieth century.

その習慣は20世紀まで続いている

She worked far[late] into the night.

彼女は夜ふけまで勉強した

㊦「勉強をして夜遅くの中に入る」ということ。

He ran into debt.

彼は借金をした

㊦「借金の中に入る」ということ。

We entered into a five-year contract.

我々は5年契約を結んだ

I got into difficulties.

私は困難に陥った

They inquired into the matter.

彼らはその事件を調査した

㊦上例のように「~の中に入る」から比喩的に「~をのぞき込む中に入って  
見てみる」→「~を調査する」といった意味にもなる。以下も同じ用例。

I didn't go into details.

詳細には論じなかった

The car ran into the wall.

その車は壁にぶつかった

㊦上例は run against ~ でも表現できるが、into では対象物の中に入りこんだり変形したり移動したりすることが暗示されるのに対し、against になると堅い物に当たってはね返されるというニュアンスになる。

(ex) The ship ran against an iceberg.

その船は氷山にぶつかった

また run into の場合、比喩的に「(人)に出くわす」「(困難等に)遭遇する」という意味にもなる。

(ex) They ran into heavy weather.

彼らは悪天候に遭遇した

I ran into an old friend at the store.

その店でひょっこり旧友と出くわした

She bumped into me.

彼女は私にドスンとぶちあたった

㊦「中に入り込む→めり込む」イメージ。

She's very much into jazz.

彼女はジャズに夢中になっている

㊦上例のように「~の中に入る」から転じて「~の中にどっぷりと入り込む  
→夢中になっている」という意味にもなる。

We separated into five groups.

我々は5つのグループに分かれた

㊦「~の中に入る」に separate の「分かれる」という意味が加わり、  
「~の中に(分かれて)入る→~に分かれる」という意味になった。

The year falls into four seasons.

1年には四季の区分がある

## 2.[ ~ = (変化した)結果 ] 「~に変わる」

(ex) They burst into laughter.

彼らはどっと笑った

㊦「笑顔に変わる」ということ。

He turned into a tyrant.

彼は独裁者に変身した

The sleet changed into snow.

みぞれは雪に変わった

㊦change to ~ という表現もあるが、一般に into は、ある物が別の物に変化する  
ことを表すのに対し、to は1つのものの状態の変化を示すのが違い。

(ex) The drizzle changed to a rain.

小雨が本降りになった

※ときに動詞と into の間に副詞が割り込むこともある。

(ex) He used to sit in the easy chair at the porch and float off into his fantasies.

上例の float into は「~の中に入る」型。その間に「(現実から)離れて」という意味  
の副詞の off が割り込んでいる。全体は「彼は玄関の安楽椅子に座り、現実を離れ  
て空想の世界によく浸っていたものだった」となる。

## ③ 「S+V for ~」型。

「S+V for ~」型は以下の3つの意味に分類することができます。

## 1. 「～に向かって進む」

(ex) The ship made for the shore.

船は岸に向かって進んだ

She prepared to leave for home[the station].

彼女は帰宅の[駅に向かう]用意をした

Their plan was heading for trouble.

彼らの計画は前途多難だった

☞ 「トラブルに向かって進んでいた」ということ。

## 2. 「～を求める」

(ex) She longs for your return.

彼女は君が帰ってくるのを待ちこがれている

He reached for his cigarettes.

彼はタバコを取ろうとした

Who are you looking for ?

誰を捜していますか

## 3. その他

- pay for A ① 「A(品物)の代金を支払う」  
② 「A(人)に代わって代金を支払う」
- be for A 「Aのためのものである」
- work for A 「Aのために働く」
- stand for A 「Aを表す、象徴する」

(ex) UN stands for United Nations.

UN は United Nations(国連)の略です

☞ 上記以外でも「～の間」という for と動詞が結びついて run for~(～の間走る)、last for A(Aの間持ちこたえる)、「～に賛成して」という for と動詞が結びついて vote for~(～に賛成投票する)等もありうる。

## ④ 「S+V to ~」型。

「S+V to ~」型は以下の2つの意味に分類することができます。なお注意してほしいのは、ここでの to は前置詞の to です。

## 1. 「～へと(自分自身を)送り込む」「～に(まで)至る」 ☞こちらが重要!

(ex) I got to the park.

私は公園に着いた

☞「公園に自分自身を送り込んだ」ということ。

Japan committed to military cooperation with the US.

日本は米国と(の)軍事協力を約束した

☞「日本は米国との軍事協力をする立場に自らを送り込んだ」ということ。

She took to drinking.

彼女は酒にふけた

Everybody took to him at once.

みんなが彼をすぐに好きになった

☞take to A には上例のように①「Aにふける」②「Aを好きになる」という意味があるが、これらは①であれば「A(良くないもの)に自分自身を送り込む」、②であれば「A(興味の対象)に自分自身を送り込む」ということ。

You should keep to this timetable.

あなたはこのスケジュール表に従わなければなりません

☞keep to A(規則・計画)で「Aに従う、Aを守る」という意味だが、これは「Aに自分自身を送り込んでそれを keepする(保つ)」ということ。

stick to A(Aに固執する)も同じタイプで「A(主義・決定)に自分自身を送り込んでそこに stick(留まる・しがみついている)」ということ。

## 2. 「～に対して〇〇する」

☞「～」は主語の行う行為の対象。

代表的なものは talk[speak] to ～(～に対して話しかける)、appeal to ～(～に対して訴える)、respond to ～(～に対して反応・対応する)、admit to ～(～を認める)などがあります。

それから「S+V to ～」型の例外として add to A があります。これは「Aを増す、増やす」という意味です。

(ex) This adds to our troubles.

これでやっかいなことがまた増える

上の英文の場合は、This adds a trouble to our troubles. の a trouble が(to 以下と同じなので)省かれたと見るといいのです。つまり(add A to B で「AをBに加える」という語法があるので)「これはもう一つのやっかいごとを、(今ある)我々のやっかいごとに加えることになる」と考えるといいでしょう。

## ⑤ 「S+V in」型。

「S+V in」型は以下の4つの意味に分類することができます。

「S+V in」型の場合、以下のように in の後ろに目的語を取らない場合も多いです  
ね(その場合の in は品詞的には副詞になる)。

### 1. 「(～の中)に入る」

「～にまで至る」

(ex) The sun got in through the window.

日光が窓から差し込んだ

The water ran in.

水が流れ込んできた

Her feet turn in.

彼女の足は内まただ

Come in.

(中)に入ってきてなさい

### 2. 「始まる・動く[き出す]」

☞ 「ある状態・行為の中に入る → 始まる・動く(き出す)」となった。

(ex) The rainy season has set in.

雨季が始まった[雨期に入った]

### 3. 「～の中にいる[ある]・とどまる」

(ex) I lived[stayed] in London.

私はロンドンに住んでいた[滞在した]

True happiness lies in satisfaction.

真の幸せは満足の中にある

He persists in her belief.

彼はがんとして信念を曲げない

### 4. 「～を中に入れる」「～を取り[受け]入れる」 ☞ S+V ~ in.となることもある

(ex) Take the washing in before it rains.

雨が降る前に洗濯物を取りこみなさい

(2)前置詞[副詞]のイメージから類推した方がっとり早いタイプ。

「S+V on ~」型は、onが「接触」を表すので「~に接触して(した状態で)〇〇する」が基本となります。たとえば survive on Aは「Aでもって食いつなぐ」という意味ですが、これはAは「手段」です。つまり「Aを手段としてその上で生き延びる → Aで食いつなぐ」となるのです。

(ex) He survived on water in the desert for a week.

彼は一週間の間砂漠で、水で食いつないだ

My salary is just enough to survive on.

私の給料ではやっと生きていけるだけだ

depend on Aは、onは同じように「接触」ですが、Aは「依存する対象」です。つまり「Aに接触して[つかまって]ここにぶら下がっている → (自分では何もせずに)Aに依存している、頼っている」となるのです。

☞dependの語源は「de(下に) + pend(ぶら下がる)」。同じ語源を持つ語に pendantがある。「ペンダント」とは首から”ぶら下げる(下がっている)”ものだ。

(ex) We depend on the newspapers for information about it.

我々はそれに関する情報を新聞によって得ている

go about Aは「A = 仕事」の場合、「Aに取りかかる」ですが、これはaboutが「周辺」を表し、「Aの周辺へと行く → Aに取りかかる」となったのです。

(ex) I went about my graduation thesis.

私は卒論に取りかかった

「S+V with ~」型は、withが「~と共[一緒]に」「~につれて」という意味の場合は、「~と共に存在する」「~と共に行く[来る]・変わる」と、「存在」や「移動・変化」を表すことが多いと言えるでしょう。

(ex) Don't associate with dishonest people.

不正直な人たちとは交際するな

Prices vary with the seasons.

値段は季節とともに変わる

withが「手段・原因」を表す場合は「~でもって[が原因で]〇〇する」となります。

(ex) I paid with a check.

私は小切手で支払った



with が「関係[対象]・対立」などを表す場合は「～を相手に[として]○○する」「～に向かって○○する」となります。

(ex) I correspond with a friend in Canada.

カナダの友人と友人と文通しています

The speaker dealt with the problem atomic-power accident

講演者は原発事故の問題を論じた[扱った]

They fought with[against] the enemy.

彼らは敵と戦った

「S+V out of～」型は、out of が「～の外へ[に・で]」という意味を表すので、「～から出ていく[くる]・～から出て[離れて]しまっている」という意味になります。

(ex) They got out of the room.

彼らは部屋から出ていった

He came out of the room.

彼は部屋から出てきた

We were out of danger.

我々は危険を脱した

The manager was out of his office on business.

支配人は仕事で事務所にいなかった

また「離れている → 手が届かない → ～がない」という意味にもなります。

(ex) The goods you ordered is now out of stock.

注文いただいた商品は現在在庫切れです

She's out of food.

彼女は食料を切らしている

He is out of work.

彼は失業中だ

① 「S+V from ~」型。

1. 「Sは~から(もどって・やって)来る・移動する・遠ざかる」

☞この場合、「~」は「(動作などの)起点」を表す。

2. 「S = 結果」、「~ = 原因」の意味関係になる

☞その場合は「~が原因となってSが生じる」といった訳がうまくはまることが多い。そしてこの意味になる場合、Sは「物事」を表す名詞であることが多い。

3. その他

・ suffer from A 「Aに[で]苦しむ」      ・ benefit from A 「Aから利益を得る」

② 「S+V into ~」型。

1. [ ~ = 場所(帰着点)・空間・時間・事業・活動 ] 「~の中へ[に]入る」

2. [ ~ = (変化した)結果 ] 「~に変わる」

③ 「S+V for ~」型。

1. 「~に向かって進む」

2. 「~を求める」

3. その他

・ pay for A ① 「A(品物)の代金を払う」      ・ work for A 「Aのために働く」

② 「A((人))に代わって代金を払う」      ・ stand for A 「Aを表す[象徴する]」

・ be for A 「Aのためのものである」

☞上記以外でも「~の間」という for と動詞が結びついて run for~(~の間走る)、last for A(Aの間持ちこたえる)、「~に賛成して」という for と動詞が結びついて vote for~(~に賛成投票する)などもありうる。

④ 「S+V to ~」型。

1. 「~へと(自分自身を)送り込む」「~に(まで)至る」 ☞こちらが重要!

2. 「~に対して〇〇する」

☞「~」は主語の行う行為の対象。

(ex) talk[speak] to ~, appeal to ~, admit to ~ など

☞例外として add to A がある。これは「Aを増す、増やす」という意味。

⑤ 「S+V in (~)」型。

1. 「(~の中)に入る」「~にまで至る」

2. 「始まる・動く[き出す]」

☞「ある状態・行為の中に入る → 始まる・動く[き出す]」。

3. 「~の中にいる[ある]・とどまる」

4. 「~を中に入れる」「~を取り[受け]入れる」 ☞ S+V ~ in. となることもある。

⑥ 「S+V with ~」型。

- 1.with が「~と共に[一緒に]」という意味の場合は、「Aと共に存在する」「Aと共に行く[来る]・変わる」と、「存在」や「移動・変化」を表すことが多い。
- 2.with が「手段・原因」を表す場合は「Aでもって[が原因で]〇〇する」。
- 3.with が「関係[対象]・対立」などを表す場合は「~を相手に[として]〇〇する」「~に向かって〇〇する」。

⑦ 「S+V out of ~」型。

1. 「~から出ていく[くる]、出る・~から出て[離れて]しまっている」
2. 「~がない」

⑧ 「S+V out」型。

1. 「外へ出る[出ている・出ていく]」「現れる」
2. 「無くなる[無い]」「消える」

④ out を用いて「現れる」「消える」という一見相反する意味になるのは、out という語は「何かがある範囲から出る動作」を表すから。話し手もまたその「範囲・活動」の内側にいて、そこからあるものが「出る」となれば、(話し手から見れば)それは「消える」「出て行く」動作になる(これを「退出の out」と言う)。

(ex) She passed out at the sight of blood.

彼女は血を見て失神した

※「意識の外に出てしまった」ということ。

逆に話し手の方はその「範囲・活動」の外側にいて、あるものが(その範囲・活動から話し手のいる側へと)「出る」となれば、(話し手から見れば)それは「出て来る」「現れる」動作になる(これを「出現の out」と言う)。

(ex) A war broke out.

戦争がぼつ発した

これが out が一見正反対の意味を持つように見える理由だ。

④ 「S+V out」では、以下のような表現もある。

(ex) Look[Watch] out!

気をつける

Your idea is out.

君の考えは間違っている

She filled out.

彼女はいっぱい満した[なみなみとついだ]

④ 「S+V out ~」型は、「①~を外へ出す②(外に出した結果)~を消す・無くす」(「退出の out」の場合)か、「(外に出した結果)~を現す、明らかにする」(「出現の out」の場合)。

(ex) He threw the rubbish out. ☞「退出」の out。

彼はごみを捨てた

I stamped out a fire in a hurry. ☞「退出」の out。

急いで火を踏み消した

Stick your tongue out. ☞「出現」の out。

舌を突き出しなさい

I figured out what I had thought. ☞「出現」。

彼が考えていたことがわかった

また比喩的に「～をや り遂げる」となることもある。「やり遂げる」となるのは「退出 out」の発展形。「物事を(やるべき)活動の範囲から出す[はずす] → 物事を(最後まで)やり切る・やり終える → やり遂げる、徹底的にやり尽くす」となるのだ。

(ex) I cleaned out the room.

部屋をすっきり掃除した

They fought it out.

彼らは戦い抜いた

### ⑨その他。

1. S+V away[aside] 型 ⇒ 「遠ざかる[脇にどく]」「いない、(い)なくなる」

☞ S+V away[aside] ~ / S+V ~ away[aside] なら「～を遠ざける[捨てる・どかす・取り除く・片づける]」。away の場合はそれでいいが、aside の場合、「①～を取り除く[捨てる・片づける] ②(後で必要なので)～を取っておく」の2つの可能性がある。

2. S+V back 型 ⇒ 「(元)に戻る、さかのぼる」

☞ S+V back to ~ なら「～に戻る、さかのぼる」。S+V back ~ なら「～を(元)に戻す」。

3. S+V up 型 ⇒ 「(立ち)上がる、(突然)現れる」

☞ put up(宿泊する)、sit[stay] up(寝ないで起きている)等、例外的なものもある。

4. S+V down 型 ⇒ 「下がる、落ちる」

☞ S+V down ~ なら「～を下げる、～を落とす」。

5. S+V off 型 ⇒ 「離れる[れている]」「出る[ている]」

☞ 応用形として、This pork is off.(この豚肉はいたんでいる)などがある。これは「本来の(食べられる)状態から離れている → 痛んでいる」ということ。S+V ~ off / S+V off ~ なら「①～から離れる[れている]、出る[ている]、②～を離れた[出た]状態にする[なる・である]」。

## 資料：主要(動詞)類義語

### (1) 「借りる」「貸す」 會頻出!

#### ① 「借りる」

1.borrow : (無料で) 借りる [通例場所の移動を伴う] (ex)本など  
borrow A(物) from B(人): BからAを借りる

2.use : (無料で) 借りる [その場で] (ex)トイレ、電話など

3.hire : (有料で) 借りる [短期間]

4.rent : (有料で) 借りる [家・土地を長期間]

會本来短期間の賃借りは hire だが、アメリカでは長期・短期にかかわらず rent を用いることが多い。

特に「土地」に関しては lease も用いる。

5.owe A(人) B(金等) : AにBの借りがある、AにBを借りている  
=owe B(金等) to A(人)

(ex) I owe my brother \$5.

兄に5ドル借りている

=I owe \$5 to my brother.

6.作文等用におさえたい、その他の「借りる」。

「A(人)の力を借りる」 ⇨ ask (for) A's help

「A(人)の知恵を借りに行く」 ⇨ go to A for advice

「A(人)の言葉を借りて言えば」 ⇨ in A's phrase  
to borrow[use] A's words

「酒の力を借りて」 ⇨ with the help of alcohol[drink]

#### ② 「貸す」

1.lend : 物を貸す場合には無料で、金を貸す場合には利子を取って貸す場合にも用いられる。=loan

lend A(人) B(金・物等) : AにBを貸す

=lend B(金・物等) to A(人)

2.rent : 有料で物や家屋、車などを貸す場合に限られる。=let out

(ex) I rented my room to a student during the summer vacation.

私は夏休みの間、部屋を学生に貸した

3.hire : 特定の目的に短期間貸す場合。 (ex) 建物、車、衣装等

4.作文等用におさえたい、その他の「貸す」。

「たばこの火を貸してください」 ⇨ Excuse me, but may I have a light?

「力を貸してください (→あなたの助けが必要だ)」 ⇨ I need your help.

「ちょっと手を貸してくれ」 ⇨ Give me a hand.

「本棚を動かすのに手を貸してください」 ⇨ Please help me move the bookshelf.

「彼は私の忠告に耳を貸そうとしない」 ⇨ He won't listen to my advice.

## (2) 「合う」 ㊦頻出!

① fit : (型と型が) 合う

(ex) This jacket fits me perfectly.

この上着は私の体にぴったりだ

② match : (物と物、色と色が) 合う、調和している =go with

(ex) The carpet should match the wallpaper.

敷物は壁紙と調和するものでなければならない

③ suit : (服や色と人・言動と人が) 似合う、似つかわしい =become

(ex) Black suits you well.

黒がよくお似合いです

Such behavior doesn't become you.

そのような振る舞いは君には似つかわしくありません

④ agree : [A(気候・食物) agree with B(人)] AがBの体質に合う

(ex) Cheese doesn't agree with me.

チーズは私の体に合わない

㊦上例のように通例、疑問文・否定文で用いる。

⑤ adapt[adjust] : [adapt[adjust] oneself to A(環境等)] Aに順応する、慣れる

(ex) She quickly adjusted herself to her new life.

彼女はすぐに新しい生活に順応した

(3) 「書く」「描く」 ㊦頻出!

- ① write : (文字・文章・書物を) 書く
- ② draw : (線で絵・図等を) 書く(描く)
- ③ paint : (色を塗って絵等を) 描く

(4) 「認める」「許す」 ㊦forgive が頻出!

- ① admit : 1. (真実として) 認める  
2. (入学を・入場・入室) を許可する

(ex) admit a person to a room  
人を部屋に入れる  
admit a student to college  
大学に入学を許可する  
be admitted to hospital  
病院に収容される

- ② concede, acknowledge : (不本意ながら) 認める

- ③ allow, permit, let : (止めずに、正式に) 認める、許可する

㊦特に permit には、物事を主語にとって「(物事が)許す、許可する、差し支えない」という自動詞の用法がある。

(ex) Weather permitting, I'll go there. ㊦頻出!  
天気が許せば(よければ)、ボクがそこに行きます

- ④ forgive, excuse, pardon : (過失などを) 許す

㊦④は後ろに「A(人) for B(物・過失)」の形をとることが多い。 ㊦頻出!

(ex) Please forgive me for my impatience.  
私の短気をお許してください  
I will never forgive him for behaving so badly.  
私は彼の不道徳なふるまいを決して許さない

㊦ excuse は forgive や pardon よりも軽い「過失・違反」を(弁解により)許す場合に用いる。

⑤ approve (of) : (積極的に) 同意する=agree to, consent to

⑥ recognize, appreciate : (価値を) 認める、評価する

(ex) recognize a new government

新政府を認める

He recognized the girl to be honest.

彼はその少女が正直であることを認めた

(5) 「傷つける」 ①と②の違いが頻出!

① injure : [事故等で] (人の体を) 傷つける =hurt

② wound : [武器、刃物等で] (人の体を) 傷つける

③ hurt : 1. [事故等で] (人の体を軽く) 傷つける  
2. (精神的に) 傷つける

④ damage : (物を) 傷つける、損害を与える

⑤ destroy : (建物を) 破壊する、(希望・計画等を) 台無しにする

⑥ spoil : (価値を) そこなう、駄目にする / (人間を) 甘やかす

(6) 「疑う」 ①と②の違いが頻出!

① doubt : ☞ doubt は「don't think:~と思わない」と同じと考えよ。

② suspect : ☞ suspect は「think:~だと思ふ」と同じと考えよ。

③ wonder : 不思議に思う

(7) 「(金額・費用が) かかる=cost」と「(時間・労力が) かかる=take」。 ①頻出!

① It takes [A(人)] B(時間・労力) to do[願形]~. : [Aが]~するのにBかかる  
=It takes B(時間・労力) for A(人) to do[願形]~. ①活用は take - took - taken。

(ex) It took me two hours to read the magazine.

その雑誌を読むのに2時間かった

② It costs [A(人)] B(金額・費用) to do[願形]~. : [Aが]~するのにBかかる



(ex) It cost me two dollars to repair the shoes.

◎活用は cost - cost - cost。

その靴を修理するのに2ドルかかった

◎ It ~ to... の構文以外では、cost がBに「時間」を取ることもある。

(ex) Writing the novel cost me much time and patience.

その小説を書くのは多くの時間と根気がいった

ただし具体的時間を表す場合は take を使う。また「犠牲・損失・労力」をB取ることもある。

## (8) 「～になる」「～するようになる」 ◎頻出!

① become C [名詞・形容詞・分詞] : Cになる

② come[get] to do [原形] ~ : ~するようになる、~することになる

(ex) How do you come[×become] to be here?

どうしてここにいることになったのですか

◎上例のように become の後に不定詞はこれない。

◎ 「learn to do [原形] ~」は「(学習を通じて)~できるようになる」。

## (9) 「見る」

① see : (無意識に) 見る、目に入る ◎ see だけは進行形を作れない

② look : (意識的に) 見る ×I was seeing it.

③ watch : 1. (動いているものをじっと) 見る  
2. 見張る、番をする

④ glance : ちらっと見る

⑤ stare : (驚いて) 凝視する

⑥ peek, peep : のぞき見る

## (10) 「聞く」

① hear : (無意識に) 耳にする、聞こえる ◎ hear だけは進行形を作れない

- ② listen to : (意識して) 聞く ×I was hearing it.
- ③ ask, inquire of : (人に) 聞く、尋ねる
- ④ obey, yield to : (命令等を) 聞く、従う

### (11) 「焼く」

- ① broil, grill : (直火であぶって) 焼く
- ② roast : (オーブンで蒸して) 焼く
- ③ barbecue : (肉等を丸ごと) 焼く
- ④ bake : (パン、菓子等をオーブンで) 焼く
- ⑤ fry : (卵等をフライパンで) 焼く、いためる、揚げる
- ⑥ toast : (パン等をトースターで) 焼く
- ⑦ burn : (黒焦げになるまで) 焼く

### (12) 「言う」

- ① stress, emphasize : 強調して言う
- ② repeat : 繰り返して言う
- ③ mention, refer to : ～について話しに出す, 言及する
- ④ remark, state : はっきり述べる、十分に述べる、言明する ☞ sayより堅い語。
- ⑤ whisper : ささやいて言う、小声で言う
- ⑥ murmur : つぶやいて言う
- ⑦ chat : 談笑して言う、歓談して言う
- ⑧ exaggerate : 誇張して言う
- ⑨ point : 指摘して言う
- ⑩ insist, claim : 主張して言う

- ⑪ explain : 説明して言う
- ⑫ declare : 宣言して言う
- ⑬ hint, suggest, imply : それとなく言う、示唆して言う
- ⑭ advise : 忠告して言う
- ⑮ confess : 白状して言う
- ⑯ order, command : 命令して言う
- ⑰ persuade : 説得して言う
- ⑱ direct : 指図して言う ☞ order[command] ほど命令的ではない。

### (13) 「訴える」

- ① sue A : A(人)を(裁判所に)訴える
- ② appeal to A : 1. A(人の心)に訴える  
2. A(手段・世間・理性等)に訴える  
3. A(人)を(裁判所に)訴える
- ③ resort to A : A(好ましくない手段)に訴える  
(ex) He resorted to violence.  
彼は暴力を振るった
- ④ complain of/about A : A(苦情・不平)を訴える、言う  
☞ claim は 1. 「A(権利など)を要求する」 2. 「A(稟など)を主張する」なので注意。  
(ex) I claimed payment from him.  
私は彼に金を払ってくれと要求した  
Both sides claimed the victory.  
両方とも勝ったと主張した

### (14) 「降る」

- ① It rains. : 雨が降る
- ② It drizzles. : 霧雨が降る

- ③ It showers. : にわか雨が降る
- ④ It snows. : 雪が降る
- ⑤ It rains. : あられが降る
- ⑥ It sleet. : みぞれが降る

## (15) 「引く」

- ① full, draw : 引っ張る
- ② lead : 導く
- ③ take away : 引き算する
- ④ install : (電話等を) 引く
- ⑤ quote : (言葉等を) 引用する
- ⑥ draw : 線を引く
- ⑦ retire : 身を引く、引退する
- ⑧ withdraw : (手足、体・軍隊を) 引っ込める、撤退させる
- ⑨ consult a dictionary : 辞書を引く  
=refer to a dictionary
- ⑩ look up a word in the dictionary : 単語を辞書で引く
- ⑪ play the piano : ピアノを弾く
- ⑫ run over A : (車等が) Aをひく、はねる
- ⑬ saw : (のこぎりで) ひく
- ⑭ pick : (カードを) 引く

## (16) 「教える」 ⚠️①と②の違いが頻出!

- ① tell, show : (道順等を) 教える

⚠️ tell と show の違いは、show は地図を書いたり、同行して教える。tell は話して教える。しかしながら、両者の違いが問われることはまずない。

- ② teach : (知識・教訓等を) 教える ☞「道を教える」程度ではteachは使わない点に注意。
- ③ educate : (人の長所を引き出して) 教育する、しつける
- ④ instruct : (知識や技術を組織的に) 教え込む

## (17) 「受ける」

- ① catch : (手で) 受けとめる
- ② accept : (物事を) 受け入れる
- ③ receive : (手紙等を) 受け取る
- ④ take, sit for : (試験を) 受ける
- ⑤ suffer : (被害・苦痛を) 受ける
- ⑥ be attacked : (攻撃を) 受ける
- ⑦ be influenced : (影響を) 受ける

## (18) 「結ぶ」

- ① tie : (ひも等を) 結ぶ
- ② link A with B : AとBを結びつける  
= connect A with B  
= associate A with B
- ③ conclude : (協定等を) 結ぶ
- ④ close : (話・会等を) しめくくる、終える =end
- ⑤ bear fruit : 実を結ぶ
- ⑥ bind : 1.(物を)縛る  
2.(精神的に)結びつける  
3.(精神的に)束縛する

(19) 「笑う」

- ① laugh : (声を出して) 笑う
- ② smile : (にっこりと声は出さずに) ほほえむ
- ③ giggle : (若い女性や子供が) くすくす笑う
- ④ chuckle : (満足気に) くっくつと笑う
- ⑤ sneer : (軽蔑するように) あざ笑う、冷笑する
- ⑥ grin : (喜び、満足を表わして) 歯を見せて笑う
- ⑦ snicker : (大人の男性の軽蔑的な) 忍び笑い、くすくす笑い

(20) 「泣く」「鳴く」

- ① cry : (最も一般的に) 泣く、泣き叫ぶ
- ② weep : (声を上げずにしくしくと) 涙を流して泣く[cryよりも堅い表現]
- ③ sob : (声を上げて) むせび泣く、嗚咽する[通例悲劇的な出来事を連想させる]
- ④ whimper : (子供等が) めそめそ泣く
- ⑤ wail : (悲しんだり苦しんだりして長時間) ぎゃあぎゃあ泣く
- ⑥ bark : (犬等が) 吠える
- ⑦ mew : (ネコがニャーと) 鳴く
- ⑧ sing : (小鳥が) 鳴く
- ⑨ howl : (狼や犬等が) 遠吠えする

(21) 「流れる」

- ① flow, run : (水が) 流れる
- ② pass : (時間が) 流れる
- ③ circulate : (うわさ等が) 流れる

## (22) 「直す」「治す」

① repair, fix : (機械・器具を) 直す、修理する

⚠ 「直す」には mend もあるが、通例 mend は布製品の修理に限られ、その他の場合には repair が用いられる。また fix は mend, repair いずれの場合にも用いられる。

② correct : (綴り、文章、言葉等を) 直す

③ vary : (一部を) 手直しする、変更する =alter

④ change : (全面的に) 変更する、変える

⑤ adjust : (合うように) 直す、調節する

⑥ translate, put : 翻訳する

⑦ cure : (病気等を) 治す =heal、(悪癖を)直す

## (23) 「破る」 ⚠ break one's promise(約束を破る)などは頻出!

① tear, rip : (紙・布等を) 引き裂く

② break : (物を) 壊す、(約束を) 破る ⇔keep one's promise「約束を守る」

③ violate : (法・規則等に) 違反する

④ beat, defeat : (相手を) 負かす、打ち破る

## (24) 「ケンカする」

① quarrel : 口喧嘩をする

② fight : (手を出して) 喧嘩する

③ argue : (議論等で感情的になって) 口論する

④ row : (夫婦で) 喧嘩する

## (25) 「わかる」

① understand : (人・事・物)を理解する[している]  
～の意味・気持・性質・扱い方などがわかる

(ex) We (can) understand[×am understanding] your position perfectly.

あなたの立場は十分に理解しております

Ⓢ can は進行形の代用として使われる。

「get it (わかる)」も understand と同意だが、こちらは会話で用いる。

- ② see : (見て)わかる、～を理解する  
(事)がわかる、～を理解する  
[S+V+(that)節/wh節[句]] ~ということがわかる、～に気付く、～を理解する

(ex) I couldn't see why he sold his favorite sport car.

彼がなぜお気に入りのスポーツカーを売ってしまったのか理解できなかった

Ⓢ see は understand より口語的な表現。見てわかることだけでなく思考の結果、了解することにも用いる。

口語では catch や get も see と同様の意味で用いられる。

- ③ comprehend : ~がわかっている      Ⓢ comprehend は書き言葉に用いる。  
(人・物・事(の性質・意味))を(知的に十分に)理解する

- ④ grasp : (意味などを)[~であることを]理解する =take

(ex) He grasped[took] their meaning clearly.

彼は彼らの言う意味をはっきり理解した

- ⑤ make out : [通例 can を伴い否定・疑問文で](人・考えなど)を理解する  
[make out that節/疑問詞節・句] ~だとわかる

- ⑥ appreciate : (物・事)を[~であることを]正しく理解する  
(その良さや価値などを)正しく認識する

- ⑦ follow : [通例否定・疑問文で]理解する  
(人)の言うことを理解する  
(人(の言葉)・話の筋など)を理解する

- ⑧ figure (out) : (考えた末に)~を理解[解釈]する

(ex) We can't figure (out) him.

我々は彼を理解できない

Ⓢ figure の『核』のイメージは「(あいまいだった)輪郭をはっきりさせる」。

- ⑨ find out : (調査・やってみた結果として)わかる =discover

(ex) We tried to find out what the truth is.



我々は真相を見つけ出そうとした

④ find にも「わかる」という意味があるが、find out と違って偶然性を含む。

⑩ realize : (事)を悟る、はっきり理解する、(実感として)~がよくわかる

⑪ get at : (真実など)をつかむ、知る

⑫ get hold of : ~を理解する  
~を学ぶ

⑬ recognize : (人が)誰であるかわかる

(ex) Do you recognize me?

私が誰だかわかりますか

How will I recognize[know] you?

あなただとわかる何か目印になるものはありますか

④ 初対面の人と待合せする時などに言うセリフ。

それから recognize には、「(人が物・事を)認識する、承認する」という意味もある。

(ex) She wouldn't recognize her mistakes.

彼女は自分の間違いをどうしても認めようとしなかった

⑭ 《その他》

get the idea 理解する

see the light 正しい筋道がわかる

〔問題などを〕理解する

absorb the full meaning of a remark

言葉の意味を完全に理解する

make an interpretation of her silence

=put an interpretation on her silence

彼女の沈黙の意味を理解する

have a good[poor] grip on[of] French grammar

フランス語の文法をよく理解している[いない]

(26) 「〇〇を守る」

① guard A(人) : Aを〔攻撃・危害などから〕守る

(ex) They guarded him against[from] attacks.

彼らは彼が襲撃されないように守ってやった

- ② defend A(人・場所) : Aを(敵・危害などから)防御する、守る ⇔ attack  
 (ex) defend him from harm  
 危害から彼を守る
- ③ protect A(人・場所) : Aを保護する  
 Aを(危険などから)守る  
 (ex) protect him from disease  
 彼を病気から守る
- ④ preserve A(人・動物等) : Aを(…から)守る、保護する  
 (ex) May Heaven preserve us from danger!  
 神様が危険から私たちを守ってくださいますように
- ⑤ secure A(人・物) : Aを(危険などから)守る、安全にする  
 (ex) secure the valuables from robbery  
 貴重品を盗まれないように守る
- ⑥ keep A(約束・秘密等) : Aを守る、A(法律・条約・慣例等)に従う  
 (ex) keep one's day  
 期日を守る  
 He has always kept his word[promise].  
 彼は常に約束を守ってきた
- ⑦ obey A(人・命令・規則等) : Aに(良いと判断して)従う、守る ⇔ disobey  
 (ex) We should obey traffic rules.  
 交通規則は守らねばならない  
 = Traffic rules should be obeyed.
- ⑧ observe A(法律等) : Aを守る ⇔ violate  
 (ex) observe the decencies  
 礼儀を守る
- ⑨ follow A(命令等) : Aを守る  
 A(例・慣習など)に習う  
 (ex) This rule is followed in most households.  
 この慣習はたいていの家庭で守られている

(27) 「～した方がいい」

- ① should, ought to : 道徳的にまたは一般的に賢明と思われることを助言する言い方だが、ought toの方が客観的で強意的な語。疑問文・否定文のときはshouldの方が普通。
- ② had better : 助言に従わないと取り返しのつかないことになるような緊急事態における警告として用い、状況次第では脅迫にもなりかねないので目上の人には用いない方がいい。
- ③ may[might] (just) as well : 「してもしなくても大した違いはないが、そうしても悪くはない」の意。had betterとは違い、特に「勧める」含みのない婉曲的な言い方。
- ④ it would[might] be better to : 客観的に何かと比較してそうする方がいいことを表わす(mightを使う方が控えめな言い方)。

(28)使役の have と get のニュアンス、用法の違い。

- ① have+O+  $\left\{ \begin{array}{l} \frac{\text{do[原形]} \sim}{C} \quad \text{「Oに～させる(してもらう)」} \\ \frac{\text{p.p.} \sim}{C} \quad \text{「Oを～される(してもらう)」} \end{array} \right.$
- ② get+O+  $\left\{ \begin{array}{l} \frac{\text{to do[原形]} \sim}{C} \quad \text{「Oに～させる(してもらう)」} \\ \frac{\text{p.p.} \sim}{C} \quad \text{「Oを～される(してもらう)」} \end{array} \right.$

使役動詞の have と get。そのニュアンス、用法の違いは以下の通り。

have+O+do[原形]~ : ①Oは、**しかるべき職業の人**で、その人に**料金を払って**「ある仕事・サービスをさせる[してもらう]」。

(ex) I had the engineer repair my car.  
私はそのエンジニアに車を修理してもらった

②**目上のものが目下の者に**「…させる」という文脈で用いる。

(ex) I had my son carry my bag.  
私は息子に鞆を運ばせた

## 會したがって

I had my teacher[boss] check the letter.

私は先生[上司]に手紙をチェックしてもらった

は不可。

I got[asked] my teacher[boss] to check the letter.

などとする。

get+O+to do[願形]～：S(人)が(説得・努力等して) O(人・物)に…させる[してもらう]。

→

(ex) I couldn't get him to stop smoking.

彼にタバコをやめさせられなかった

I got the door to shut properly. ドアをきちんと閉めた

have+O+p.p.～：① [受益の意味の使役・依頼] [物] を…させる、…してもらう  
≒get+O+p.p.

會 get の方が語感が強い。過去時制では had が、命令文では get が普通。

(ex) He had[got] his house built.

彼は家を建てた

He hasn't had[got] his hair cut (for) three months.

彼は3か月散髪していない

② [不利益を表す受身の意味・被害] [物] を…される

會この意味でget+O+p.p.を用いるのは、S(主語)に何らかの責任の含みがある場合。目的語が「(本人の)身体の一部」の場合が多い。

(ex) She had[×got] her ring stolen.

彼女は指輪を盗まれた

I had[got] my leg broken in the accident.

私はその事故で足の骨を折ってしまった

③ [完了・状態] …してしまう、…し終える = get+O+p.p

會主としてアメリカ用法。get の場合、S(主語)が「私(自分)」になり、「(自分で)～してしまう」の意味になる。

(ex) I had[got] my homework done.

宿題をすっかりし終えた

have+O+doing～：① [思い通りの結果や思わぬ成行きを表す]

(ex) He has the water running in the bathtub.

彼は浴槽に水を出したままにしている  
I won't have you saying such things about my sister.  
姉さんのことを君なんぞにそんなふうに言わせてはおかないぞ

②[どうしようもない出来事や手はずを整えた事柄を表す]

(ex) I have a headache coming on.

頭痛がしてきた  
If you make such a noise, you'll have the neighbors complaining.  
もしそんな音を立てると近所の人々が苦情を言うだろう

## (29) 「私の家は駅から遠い」

My house is a long way (off[away]) from the station.

It's a long way to my house from the station.

=It's a long way to the station from my house.

會 「to+場所」が続くときは off, away をつけない。

[解説] ① far は漠然と遠く離れていることを表わし、通例否定文・疑問文で用いる。  
肯定文では a long way (off[away]) などを用いる。ただし too, so, as, very,  
away, offなどを伴うときは肯定文でも用いられる。

○My house is a long way (off[away]) from the station.

×My house is far from the station.

私の家は駅から遠い

○Is the station far from here?

○The house is not far from here.

○How far is it from here to the station?

② distant は簡単に到達できない非常に遠方を表わす。

×My house is distant from the station.

○The moon is distant from the earth.

③ faraway(形), far-off(形) はfarを強めた形でやや堅い語。remote(形) は  
辺鄙・不便さを暗示し到着の困難を表わす。

(ex) a house remote from the village

人里離れた家

faraway places

遠方の場所

- ④ away は距離や時間を表す名詞の後につけて「○○の距離(時間)を置いて」  
「○○だけ離れて(先に)」。

(ex) The lake is three miles away[×far] from here.

湖はここから3マイル離れている

The exams are only a week away.

試験までもう1週間しかない

I was two months away from graduating from high school.

高校卒業まであと2か月だった

Ⓢ 上記のような具体的な距離を表す名詞があった場合には far は用いない。

### (30) 「訪ねる」

- ① visit A(人・場所) : 長期の訪問にも用いる最も一般的な語
- ② pay a visit to A(人・場所) : 特定の目的で訪ねる。より堅い言い方
- ③ call on A(人)/call at A(場所) : 1.職務、儀礼で訪ねる  
2.ちょっと立ち寄る
- ④ drop in on A(人)/drop in at A(場所) : 予定もなくひよっこり立ち寄る
- ⑤ come to see A(人) : 遊びにいく(くる)  
=come and see A(人)  
=come over to A(場所)

「われわれはきのう田中氏を訪ねた」

We visited Mr. Tanaka yesterday.

We paid[made] a visit to Mr. Tanaka yesterday.

We called on Mr. Tanaka[at Mr. Tanaka's house] yesterday.

Ⓢ 「田中氏を会社に訪ねる」のように人と場所を同時に表わすときは  
visit Mr. Tanaka at his office のようになる。

「おばが今日訪ねてくる」

My aunt is coming to visit today.

「彼がゆうべ僕[僕の家]をひよっこり訪ねて来た」

He dropped in on me [at my house] last night.

「いつか当地においでになったらお訪ねください」

Come and see me[Come over to my house] if you're ever here.

Ⓢ come and see(はcome to seeより口語的)。

(31) 「すすむ」

① 「前進する」

advance                    proceed

move forward        make one's way

go ahead

feel one's way : 手探りで進む      ☞ 「動詞 + one's way」で「○○して進む」。

push one's way : 押しのけて進む

② 「進歩する」

make progress

advance

improve A : Aが上達する

③ 「光は音よりもずっと早く進む (→伝わる) 」

Light travels much faster than sound.

④ 「この分野では日本は他の国々より5年は進んでいる」

In this field, Japan is at least five years ahead of other countries.

⑤ 「私たちは決勝に進んだ」

We reached[advanced to] the finals.

⑥ 「ぼくの時計は1か月に1分進む」

My watch gains a minute a month.

⑦ 「この時計は5分進んでいる」

This clock is five minutes fast.

cf: 「私の時計は月に2秒遅れる」

My watch loses two seconds a month.

「この時計は2分遅れている」

This watch is two minutes slow.

(32) rob と steal      彙頻出! rob と steal では「人」と「物」の順番が逆。

① rob A(人) of B(物) : AからBを奪う

彙受身は「A(人) is robbed of B(物):AはBを奪われる」。活用は rob - robbed - robbed 。

② steal A(物) from B(人) : AをBから盗む

會受身は「A(物) is stolen from B(人):AがBから盗まれる」。活用は steal - stole - stolen。

會ちなみに「Aを盗まれる」という表現は、使役動詞の「have+O+C[p.p.]:OをCされる」を用いて以下のようにも表現できる。

have  $\frac{A(\text{物})}{O}$   $\frac{\text{stolen}}{C}$  : Aが盗まれる

(ex) I had my bag stolen.

私は鞆を盗まれた

意味上の主語の関係になるOが my bag と「物」を表す名詞なので、Cに robbed はこない。

### (33) 「会う」

- ① see : 1.人と顔を合わせる  
2.人を見かける 電 相手がこちらを認識していなくても使える

(ex) I'm glad to see[meet] you again.

またお会いできてうれしい

I saw her several times on (the) campus.

学校の構内で数回彼女を見かけた

- ② meet : 1.(初対面で)正式の紹介などによって人と近づくになる  
2.人に偶然に出会う

(ex) "I'd like you to meet my friend Peter."

友人のピーターを紹介いたします

"I'm glad to meet you"

近づくになれてうれしいです

=Nice to meet you.

會初対面の時は meet の代わりに see は使えない

I met her at the station.

駅でばったり彼女に出会った

- ③ meet with : 人に偶然会う、事故や障害などに遭遇する、親切・不幸などを経験する

(ex) Once or twice he had met with Arabs.

一二度はアラブの人々に偶然に出会った

I met with an accident on my way home.

私は帰りに事故にあった



④ encounter : 危険や困難に遭う、直面する、思いがけない人に会う ㊦固い表現

(ex) She encountered problem after problem.

彼女は次々と困難に直面した

I encountered an old friend whom I hadn't seen in three years.

3年ぶりに旧友にひょっこり出会った

### (34) 「打つ」

① strike : 1. [...を目がけて] 打つ、なぐる、攻撃する

(ex) Strike while the iron is hot.

鉄は熱いうちに打て [諺]

2. 〈人・物など〉を打つ、たたく、なぐる =hit

(ex) be struck by (a bolt of) lightning

雷に打たれる

3. 〈時計・鐘が〉打つ、鳴る ㊦頻出!

〈時計・鐘などが〉〈時〉を打って知らせる =toll

〈鍵(けん)〉を打ち鳴らす

(ex) strike a note on the piano

ピアノの鍵を打つ

This clock strikes the quarters.

この時計は15分ごとに打つ

4. 〈人〉の心を打つ =touch, move

〈人〉に...(である)という感じを与える

[be struck on O]...に好感を持つ、...に感銘を受ける

(ex) I was struck by[with] her beauty.

彼女の美しさに打たれた

be struck with awe

畏敬の念に打たれる

② hit : [...を狙いを込めて一回だけ] 打つ、たたく、なぐる

〈人・物が〉〈人・物〉を [...で] 打つ、たたく、なぐる

(ex) hit a ball with a bat

バットで球を打つ

ヒット(ボール)を打つ

- ③ beat : 〈人・物が〉〔…を〕続けざまに(どンドン)打つ、たたく  
 (罰として)…をむち[杖(つえ)]で打つ、…の尻(しり)をぶつ  
 〈心臓が〉鼓動する、〔喜びなどで〕ときどきする〔with〕  
 〈脈が〉打つ =pulsate
- ④ knock : 〈人などが〉〇(人・物)を(何度も)打って[にあたって]…(の状態)にする
- ⑤ touch : ～を軽く打つ[たたく、押す]
- ⑥ whip : 〈人・動物〉をむち打つ  
 ～をせっかんする  
 〈動物〉をむち打って駆りたてる
- ⑦ slap : (平手・平たいものなどで)〈人〉の〔…を〕ぴしゃりと打つ  
 (ex) slap one's knee 膝を打つ  
 He slapped me in[on] the face[on the back].  
 = He slapped my face[back].  
 彼は私の顔[背中]をぴしゃりと打った
- ⑧ smash : …をバシッと打つ  
 〈人〉〔の体の一部〕を強打する
- ⑨ flap : 〈人が〉(平たくしなう物で)〔物を〕(軽く)ピシャッと打つ、たたく
- ⑩ drum : 〔…を/指などで〕(律動的に)トントン打つ、コツコツたたく、(太鼓を)打つ
- ⑪ bang : 〔…を〕ドンドン打つ[たたく]
- ⑫ hammer : 〔…を〕つちで打つ  
 どんどんたたく  
 〈物〉をつちで打つ[たたく]  
 〈くぎなど〉を〔物に〕打ち込む  
 (ex) nail a box together  
 (ぞんざいに)くぎを打って箱を作る
- ⑬ lap : 〈波などが〉〈岸など〉に打ち寄せる、〈船べりなど〉をひたひた打つ
- ⑭ point : 〈文など〉に句読(くとう)点を打つ =punctuate
- ⑮ dot : 点を打つ
- ⑯ advance : 〈手付け金〉を打つ

(ex) advance money on an agreement

契約の手付け金を打つ

⑰ send a telegram : 電報を打つ =wire

(ex) send her a congratulatory telegram[cable]

彼女に祝電を打つ

send a message by wireless

無電を打つ

⑱ radio : {...(に) 無電を打つ、無線連絡をする

⑲ tap out an SOS : SOSを打つ

⑳ concrete : コンクリートを打つ

type : タイプライターを打つ

[原稿の] タイプを打つ

(ex) Note how to type[how I type].

どのようにタイプを打つかよく見ていなさい

shoot : (銃・弓などで) [人・動物など] を撃つ  
...を射殺する

[鳥など] の狩猟をする

會活用は shoot - shot - shot.

(ex) Don't shoot wild animals.

野生動物を撃ってはいけない

### (35) 「疑う」

① challenge : 「挑戦する」という意味以外に「異議を唱える」という意味もあるが  
後ろに that節をとることはない。

(ex) He challenged the accuracy[正確さ] of my statement[発言].

彼は私の言っていることは正確でないと異議を申し立てた

② question : 「質問する」という意味以外に「疑わしいと思う」という意味もあるが、  
その場合、後ろには whether節や名詞が来るのが普通。

(ex) I question the truth of his story.

彼の話はどうもほんとでないような気がする

I question whether he will succeed.

彼が成功するかどうか疑わしい

③ doubt と suspect。 ☞頻出!

1.doubt : don't think と同じと考えよ。つまり「思わない」という意味。

2.suspect : think と同じと考えよ。つまり「思う」という意味。

(36) 「似ている」 ☞頻出!

①前置詞の like を用いた例文。 ☞前置詞なので、必ず直後に名詞が必要。

(ex) Her house is (very much) like mine.

彼女の家は私の家と(たいへん)似ている

Italy is like a boot in shape.

イタリアは形が長靴に似ている

☞この like と共に用いることのできる動詞は be動詞の他に、知覚動詞(feel, look, seem, smell, sound, taste)がある。

たとえば「Cのように(外見上)見える」は look like C(名)。

(ex) The man looked like a policeman.

その男は警察官のように見えた

同じ「Cのように見える」でも、Cに「形容詞」が来る場合、like は必要ない。

(ex) The man looked happy.

その男は幸せそうに見えた

このルールは他の知覚動詞にも当てはまる。

②形容詞の alike を用いた例文。 ☞be[look] alike 等といった形で用いる。

(ex) The twin girls are[look] so much alike that I can't tell one from the other.

そのふたごの女の子はとてもよく似ていて私には区別がつかない

Wealth or poverty is alike to me.

金があろうとなかろうと私には同じことだ

☞ alike をはじめ、a ではじまる形容詞は、補語としてのみ使える。つまり「alike+名詞」のように、前から名詞を修飾するということはいけない点に注意。つまり

The twins are alike.

その双子はよく似ている

とは言えても

The alike twins

とは言えない。

③形容詞の similar[akin] を使って「A is similar[akin] to B: AはBに似ている」。

(ex) A wildcat is similar[akin] to but smaller than a lion.

ヤマネコはライオンに似ているが、より小さい

=A wildcat is similar[akin] to a lion but it is smaller than a lion.

④動詞の resemble を使って「A resemble B: AはBに似ている」。

(ex) She resembles[×is resembling] her sister in appearance but not in character.

彼女は外見が姉と似ているが性格は異なる

⑤動詞の take を用いて「A take after B: AはBに似ている」。

(ex) He takes[×is taking] after his father in disposition.

彼は性質が父親に似ている

☞ take after は「親子関係」において用いる。

⑥副詞の likewise 「同様に」を用いた例文。

(ex) He hated her, and she hated him likewise.

彼は彼女を憎んだが、彼女も同じように彼を憎んだ

⑦形容詞の same を用いた例文。

☞ the same という形でしか使わない。また限定用法で（つまり名詞を直接修飾する形で）用いる。

(ex) in the same way

同様に

We both go to the same school.

私たちは同じ学校に通っています

They were born on the same day.

彼らは同じ日に生まれた

㊦ likelyは「可能性がある」という意味。以下の表現が頻出。

S is likely to V～ : ～する可能性がある、～しそうだ  
=It is likely that S + V～

(ex) It is likely that he will succeed.

=He is likely to succeed.

彼は成功しそうだ

It is likely for him to succeed. とはいえない。

またlikelyは「副詞」として、「おそらく(=probably)」という意味もある。

(ex) He will likely[=probably] be in Paris tomorrow.

彼はたぶん明日はパリにいるだろう

Most likely he will succeed in the test.

おそらく彼はその試験には受かるだろう

I shall very likely stay at home all day.

私はおそらく一日中家にいるだろう

### (37) 「行く」 ㊦頻出!

① go : 自分を中心にして自分がいる場所からよそへ(離れて)行く動作を表す。

② come : 相手のいる[行く]場所などへ自分が近づいて行く動作を表す。

(ex) I will go to Okinawa during this winter vacation.

ぼくはこの冬休みに沖縄に行く予定だ

I'll come over (to your house) tomorrow.

明日、きみのうちに行くよ

㊦ 夕飯の準備が出来たダイニングにいる母親に、「ご飯よ!」と言われ、「今行く!」という場合には I'm coming. と言わなければならない。

### (38) 「～しがちだ」

① tend to do[願]～ : 〈人・物・事が〉～する傾向がある、～しがちである、よく～する

(ex) Her novels tend to dullness[be dull].

彼女の小説は退屈になりがちだ

He tends to laziness.

彼は怠惰に走りがちだ ☞「tend to A(名)」という形もある。

- ② incline to A : (体質・気質的に)A/～する傾向がある  
be inclined to do[原形]～

(ex) He is inclined to be rude to others.

彼はとにかく他人に礼を失する傾向がある

- ③ be apt to do[原形]～

be liable to do[原形]～ ☞ 通例これら3つの表現は、好ましくないことに対して用いる。  
be prone to do[原形]～

(ex) He is apt to be careless.

彼にはどうも軽率なところがある

Difficulties are liable to occur.

とにかく面倒は起りがちだ

We are more prone to make mistakes when we are tired.

疲れている時の方が間違いをしがちだ

☞ prone の場合、be prone to A で「Aの傾向がある」という語法もある(この場合の to は前置詞)。

(ex) He is prone to idleness.

彼は怠けがちだ

### (39) 「見える」

- ① seem : 話者の主観的な印象に基づいて「(私には)そのように思える」という意味。  
客観的事実に基づいた場合にも用いる。

S seems to V～

=It seems that S + V～

(ex) She seems to be happy.

=It seems that she is happy.

- ② appear : 客観的な事実に基づいて「(実際はどうか疑わしいが、外見上は誰がみても)～のように見える」と、外見をより強調した言い方。seem より形式ばった表現。

- ③ look : (目で見た感じ)外見がそう見え、実際にもそうであるというニュアンスを含む。

(ex) He looks young for his age.

彼は歳のわりには若く見える

(40) 「(仕事等を)辞める」 ㊦頻出!

① leave : 辞める理由が不明であることが多い。

(ex) I seriously considered leaving the office.  
私は本気で会社をやめることを考えた

㊦ leave school と言った場合、アメリカでは「学校を辞める → 退学する」、イギリスでは「卒業する」という意味にもなる。

② quit : 自己の都合や意志で辞める。  
以下のように「仕事」以外も目的語に取る。

(ex) He quit smoking[cigarettes].  
彼はタバコをやめた  
Quit worrying about me.  
僕のことは構わないでくれ

③ resign : (職・地位等を)辞職する、辞任する

(ex) The minister resigned his office.  
その大臣は辞職した

㊦自分の意志または一身上の都合で retire すること。quit に近い。  
自動詞として resign as[from] A で、「Aを辞職する」となることもある。  
また resign oneself to A, be resigned to A で「Aに従う、Aに身を任せる」という語法もある。

(ex) He was resigned to Heaven's will.  
彼は天命に従った  
She resigned herself to sleeping.  
彼女はあきらめて眠った

④ retire : (定年で)退職する、引退する

(ex) My father retired at the age of 65.  
父は65歳で退職した  
He retired from the railway company.  
彼は鉄道会社を退職した

㊦基本的に自動詞で「Aを引退する」という場合、retire from A と、前置詞の from を直後に取る。



他動詞として用いられると retire A で「Aを(定年を理由に)解雇する」となる。

(ex) They retired the jockey from horse racing.

彼らはその騎手を競馬から引退させた

もちろん(他動詞の retire も) be retired とすれば「引退する」という意味になる。

(ex) My father is comfortably retired in the country.

父は退職して田舎で気楽に暮している

#### 會ちなみに

- ① stop は「(動作・行為等を) やめる」。
- ② give up は「(行為・習慣等を) やめる、あきらめる」。
- ③ withdraw from は「(A[組織・団体]から) 脱退する、引退する」。
- ④ be fired[dismissed] は「解雇される」。

#### (41) 「育つ」「~を育てる」 會頻出!

- ① 「育つ」 會 自動詞。

grow (up)

(ex) My son grew up into a strong young man.

息子は成長してたくましい若者になった。

I grew ten centimeters last year.

去年は背が 10 センチ伸びた

- ② 「~を育てる」 會 他動詞。

1. bring up

2. raise

3. rear

會 bring up は「(人を)育てる」という意味の最も一般的な表現。

「(養子として)~を育てる」は foster を用いる。

「動物を家畜として育てる」は breed(-bred-bred)を用いる。

「植物を育てる[栽培する]」は grow(-grew-grown)を用いる。

「人・動植物を大事に守り育てる」は nurse を用いる。

bring up, raise, rear を受動態で用いれば、「育つ(=grow up)」となる。

(ex) We want to bring up our children in a free atmosphere.

[rear]

[raise]

息子を自由な空気の中で育てたい

My father was brought up fighting diseases.

[grew up]

父は病気と戦いながら成長した

Q. I don't know where he ( ) in his childhood.

① brought up    ② was grown up    ③ raised    ④ was raised